

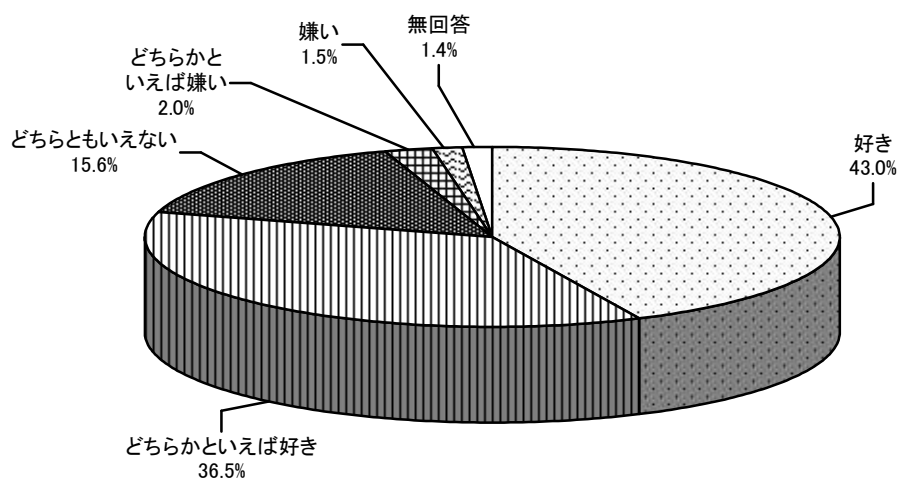
(15) 市への好感度について

問 16 あなたは、北九州市が好きですか？次の中から1つだけ選んでください。

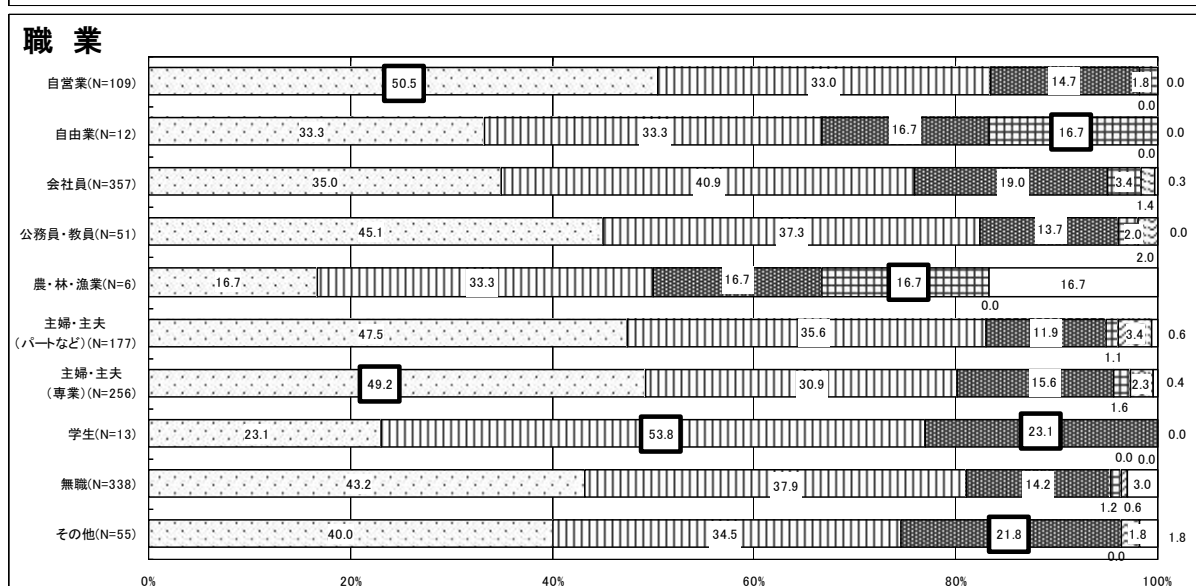
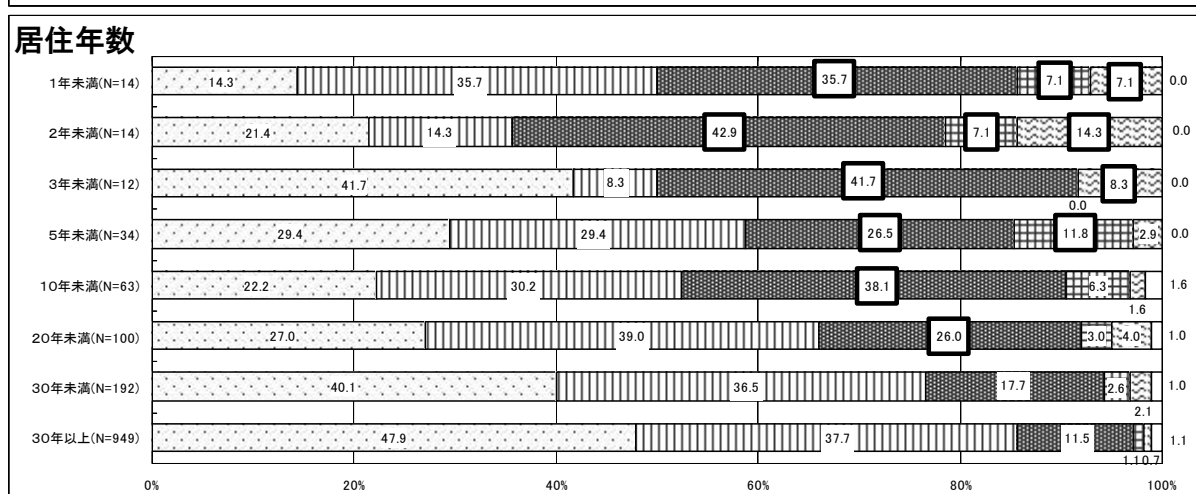
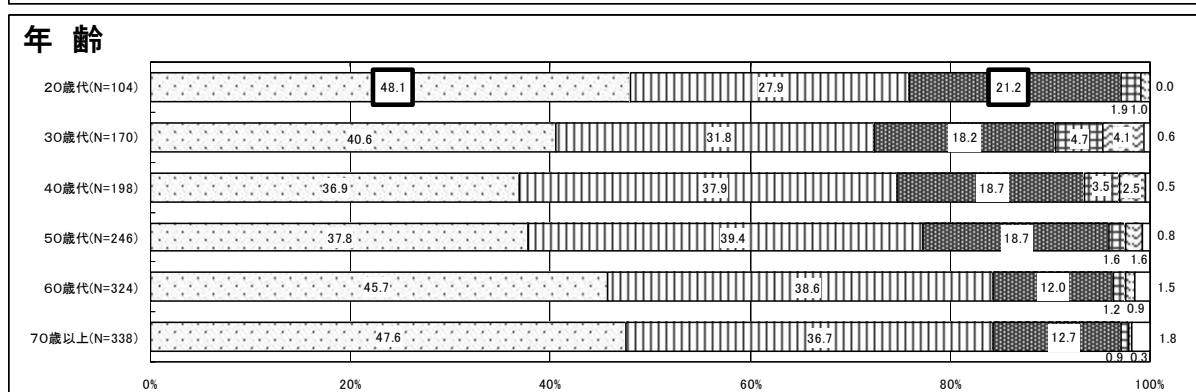
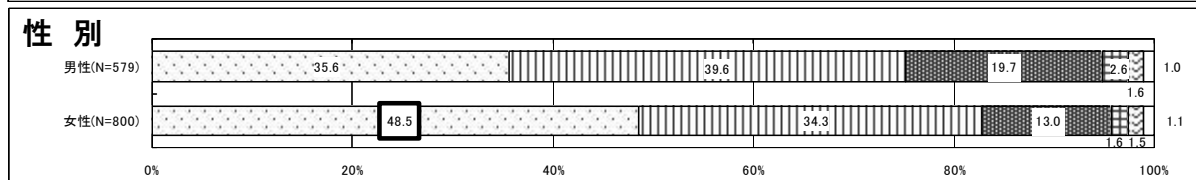
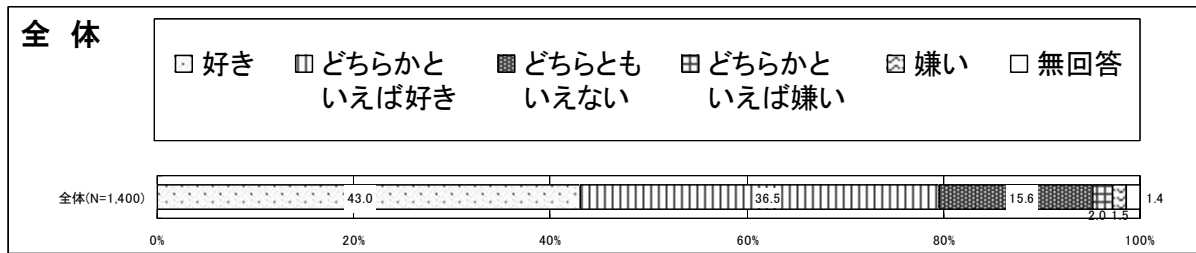
N : 1,400 人

| 項目 | 回答数 (人) | 割合 (%) |
|--------------|---------|--------|
| 1 好き | 602 | 43.0 |
| 2 どちらかといえば好き | 511 | 36.5 |
| 3 どちらともいえない | 219 | 15.6 |
| 4 どちらかといえば嫌い | 28 | 2.0 |
| 5 嫌い | 21 | 1.5 |
| 無回答 | 19 | 1.4 |

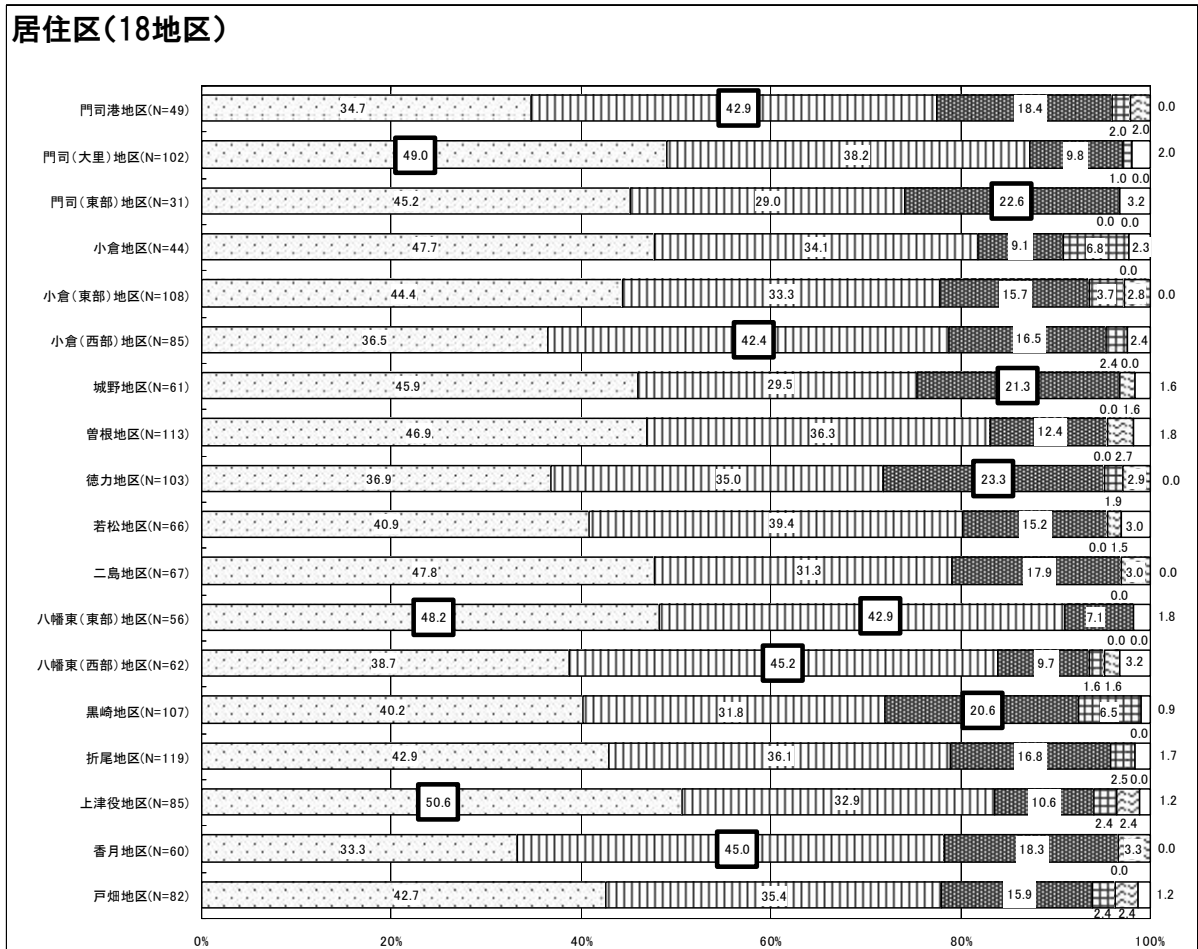
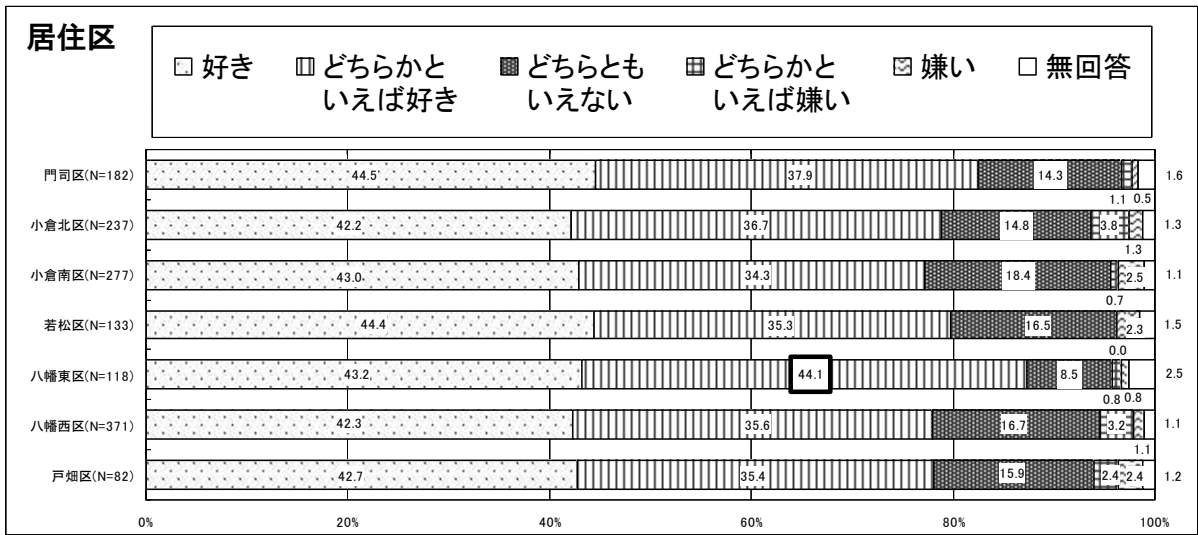
◇ 積極的肯定意見の「好き」(43.0%) が4割強、「肯定派」(79.5%) が約8割。



問 16 市への好感度について



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

市への好感度について

【全体的傾向】

この設問では、北九州市が好きかどうかについて、尋ねてみた。

結果は、積極的肯定意見である「好き」が43.0%で最も多く、4割強を占めた。次に肯定意見である「どちらかという好き」が36.5%で続き、これらを合わせた「肯定派」は79.5%と約8割を占めた。一方、強い否定意見である「嫌い」は1.5%で、否定意見である「どちらかといえ

ば嫌い」(2.0%)と合わせた「否定派」は3.5%となった。なお、「どちらともいえない」は15.6%であった。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、「好き」は女性(48.5%)が男性(35.6%)を12.9ポイント上回り、「肯定派」も女性(82.8%)が男性(75.1%)を上回り、女性のほうが、より肯定的であることがうかがえる結果となった。「否定派」は男性(4.2%)が女性(3.1%)をやや上回り、「どちらともいえない」も男性(19.7%)が女性(13.0%)を上回った。
- ◇ 年齢別では、「好き」は20歳代(48.1%)で最も多く、30歳代(40.6%)、40歳代(36.9%)で一旦割合が低くなるが、50歳代(37.8%)、60歳代(45.7%)、70歳以上(47.6%)と、年齢が高くなるにつれ割合も増える傾向にあった。「肯定派」は、60歳代及び70歳未満(ともに84.3%)で8割を上回った。一方、「否定派」は30歳代(8.8%)で最も多かった。「どちらともいえない」は20歳代(21.2%)で唯一2割を上回った。
- ◇ 居住年数別では、「好き」は30年以上(47.9%)で最も多く、次いで3年未満(41.7%)、30年未満(40.1%)と続き、これらの層で4割を上回った。一方、1年未満(14.3%)のみ2割を下回った。「肯定派」は30年以上(85.7%)で最も多く、次いで30年未満(76.6%)、20年未満(66.0%)と続いた。最も少なかったのは2年未満(35.7%)で、その次の1年未満及び3年未満(ともに50.0%)と14.3ポイント差となり、突出して少なかった。「否定派」は2年未満(21.4%)で最も多く、唯一2割を上回った。最も少なかったのは30年以上(1.8%)であった。
- ◇ 職業別では、「好き」は自営業(50.5%)で最も多く、次いで主婦・主夫(専業)(49.2%)、主婦・主夫(パートなど)(47.5%)と続いた。一方、学生(23.1%)は極端に少なかった。「肯定派」は自営業(83.5%)で最も多く、最も少なかった自由業(66.6%)以外の全ての職業層で7割を上回った。「否定派」は自由業(16.7%)で突出して多かった。「どちらともいえない」は学生(23.1%)及びその他(21.8%)で2割を上回った。
- ◇ 居住区別で行政区別に見ると、「好き」は門司区(44.5%)で最も多く、最も少ない小倉北区(42.2%)との差は2.3ポイントと、地区による大きな差は見られなかった。「肯定派」は八幡東区(87.3%)で最も多く、次いで門司区(82.4%)が続き、この2区で8割を上回った。「否定派」は小倉北区(5.1%)で最も多く、唯一5%を上回った。

行政区を18地区に細分化して見ると、「好き」は上津役地区(50.6%)で最も多く、次いで門司(大里)地区(49.0%)、八幡東(東部)地区(48.2%)と続き、香月地区(33.3%)で最も少なかった。「肯定派」は八幡東(東部)地区(91.1%)が最も多く、9割を上回った。最も少なかったのは徳力地区(71.9%)であったが、全ての地区で7割を上回った。「否定派」は小倉地区(6.8%)で最も多く、次いで小倉(東部)地区及び黒崎地区(ともに6.5%)と続き、これら3地区で5%を上回った。門司(東部)地区及び八幡東(東部)地区は0.0%であった。

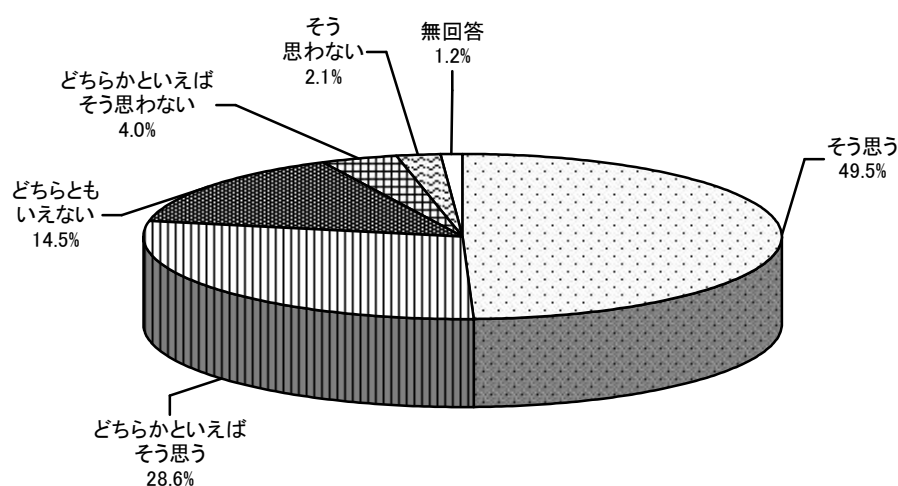
(16) 市への愛着度について

問 17 あなたは、北九州市に住んで良かったと思いますか、北九州市にずっと住み続けたいと思いますか？次の中から1つだけ選んでください。

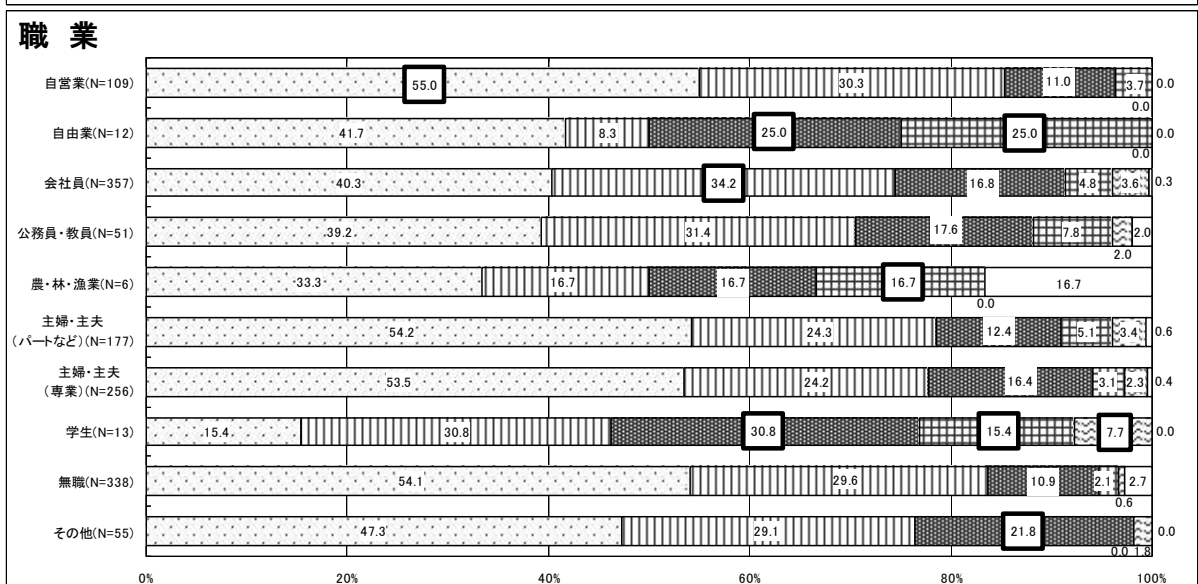
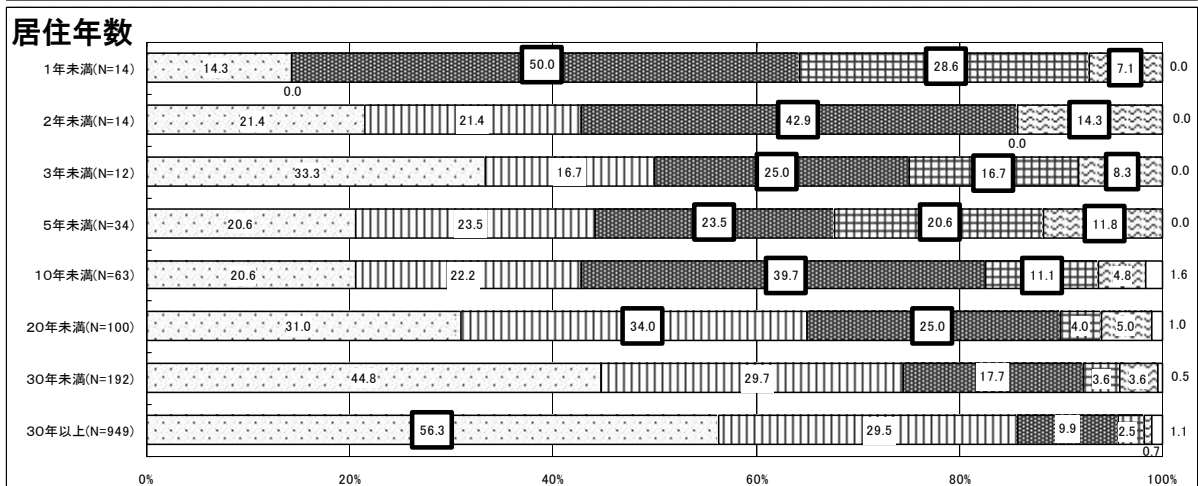
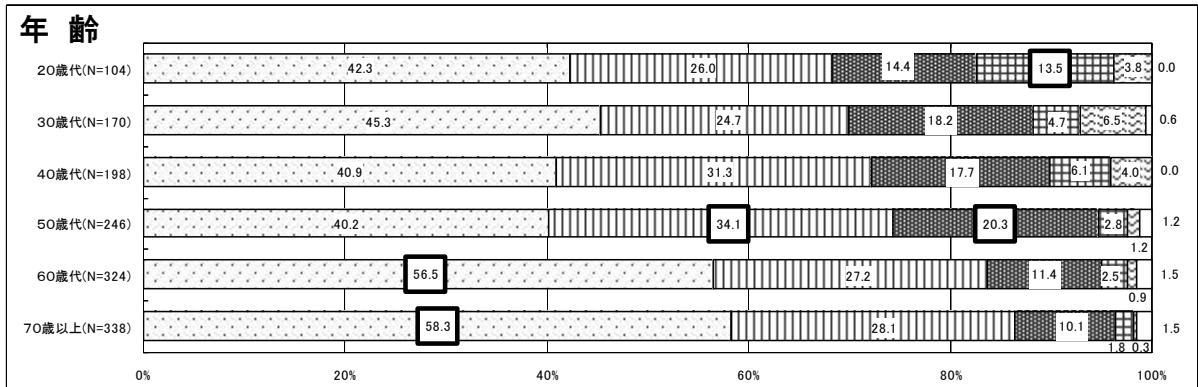
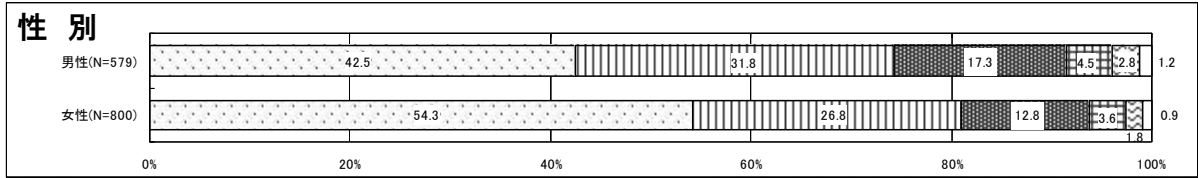
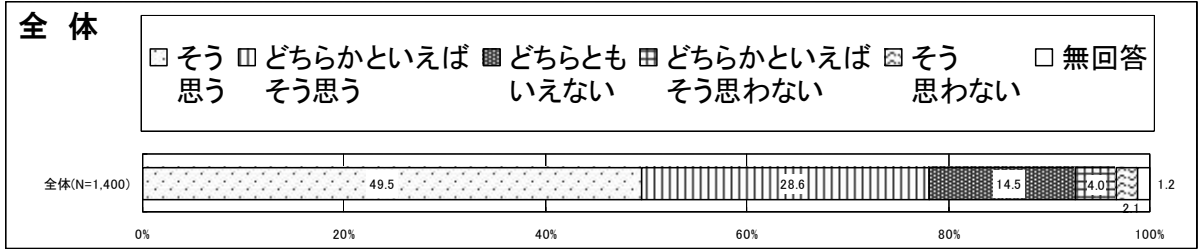
N : 1,400 人

| 項目 | 回答数 (人) | 割合 (%) |
|------------------|---------|--------|
| 1 そう思う | 693 | 49.5 |
| 2 どちらかといえばそう思う | 401 | 28.6 |
| 3 どちらともいえない | 203 | 14.5 |
| 4 どちらかといえばそう思わない | 56 | 4.0 |
| 5 そう思わない | 30 | 2.1 |
| 無回答 | 17 | 1.2 |

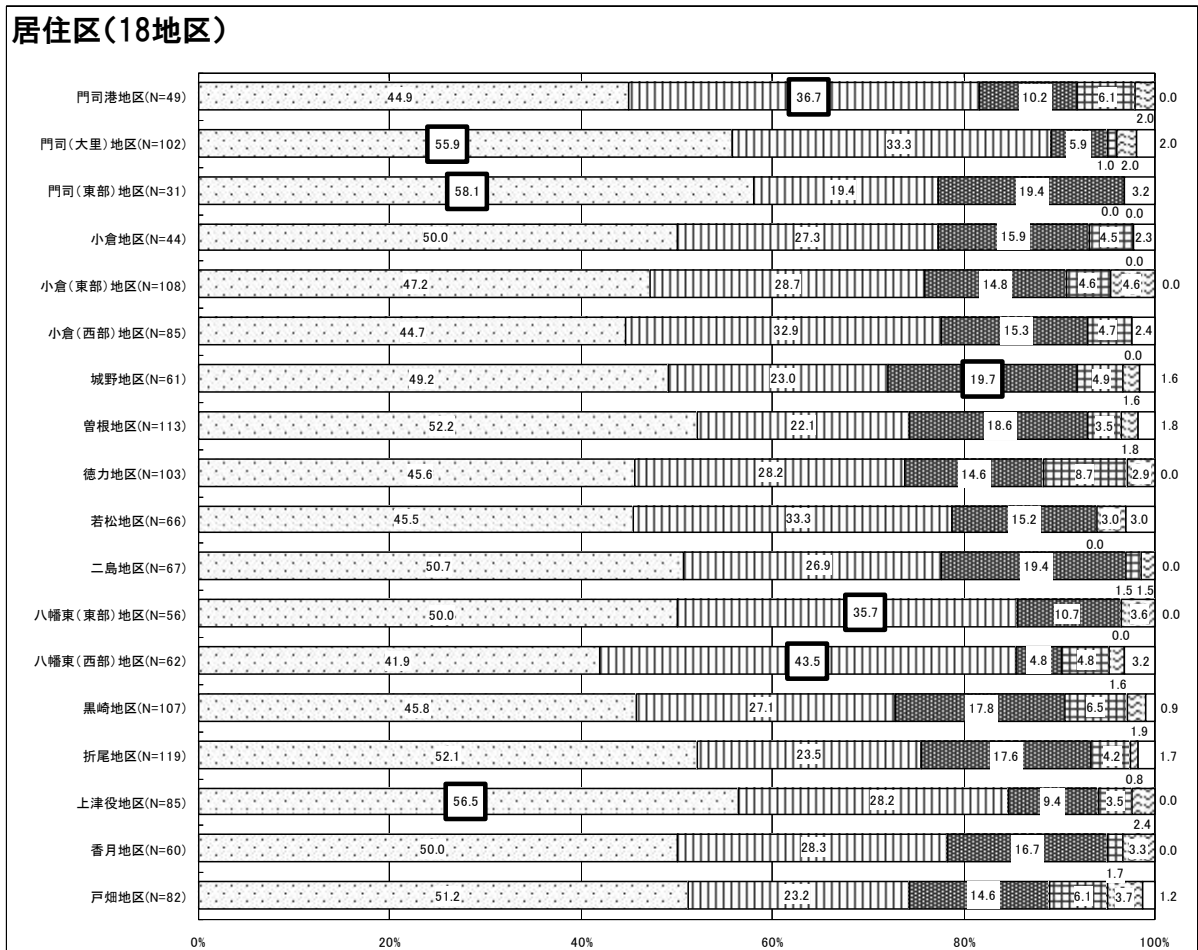
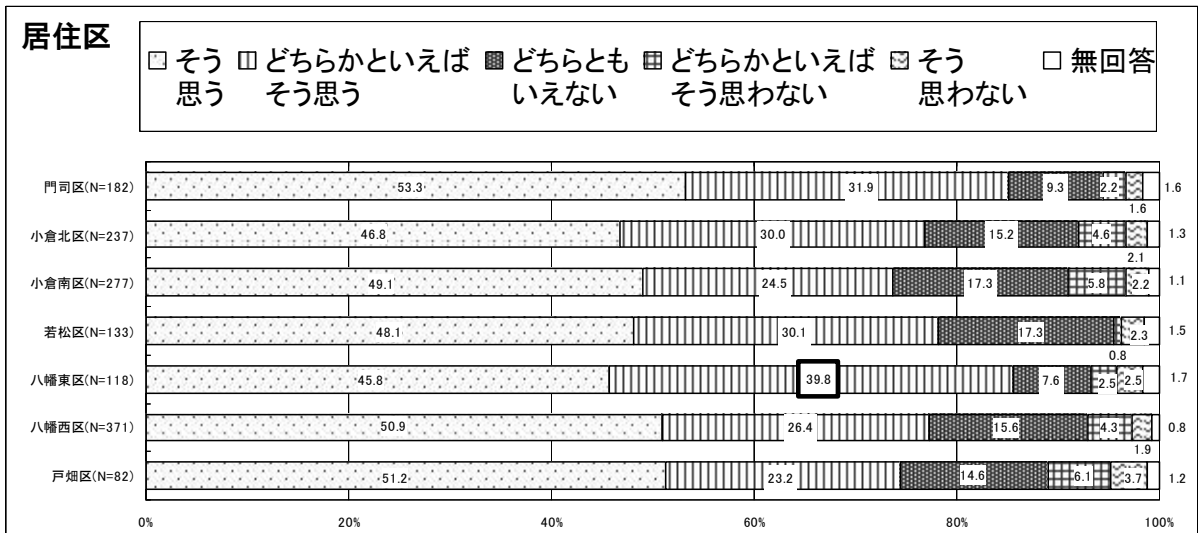
◇ 「そう思う」(49.5%)が約5割で最多。「どちらかといえばそう思う」(28.6%)と合わせた「肯定派」は78.1%で8割弱。



問 17 市への愛着度について



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

市への愛着度について

【全体的傾向】

次に、北九州市に住んで良かったか、ずっと住み続けたいと思うかについて尋ねてみた。

最も多かったのが、積極的肯定意見の「そう思う」(49.5%)で約5割を占めた。肯定意見の「どちらかといえばそう思う」は28.6%で、これらを合計した「肯定派」は78.1%となり、問16の「肯定派」(79.5%)と同程度の結果となった。一方、否定意見の「どちらかといえばそう思わな

い」(4.0%)と強い否定意見の「そう思わない」(2.1%)を合わせた「否定派」は6.1%となり、問16の「否定派」(3.5%)をわずかに上回った。なお、「どちらともいえない」は14.5%と、問16の「どちらともいえない」(15.6%)と同程度であった。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、「そう思う」は女性(54.3%)が男性(42.5%)を11.8ポイント上回った。「肯定派」も女性(81.1%)が男性(74.3%)を上回り、問16同様、女性のほうがより肯定的であることがうかがえる結果となった。「否定派」は男性(7.3%)が女性(5.4%)を上回り、「どちらともいえない」も男性(17.3%)が女性(12.8%)を上回った。
- ◇ 年齢別では、「そう思う」は70歳以上(58.3%)で最も多く、次いで60歳以上(56.5%)、30歳代(45.3%)と続き、高齢層を中心に割合が多かった。「肯定派」も20歳代(68.3%)が最も少なく、70歳以上(86.4%)で最も多く、年齢が上がるにつれ割合も多くなった。「否定派」は20歳代(17.3%)で最も多く、70歳以上(2.1%)で最も少なかった。
- ◇ 居住年数別では、「そう思う」は30年以上(56.3%)で最も多く、次いで30年未満(44.8%)、3年未満(33.3%)と続き、居住年数が長い層を中心に多かった。「肯定派」も30年以上(85.8%)で最も多く、次いで30年未満(74.5%)、20年未満(65.0%)と続き、1年未満(14.3%)は極端に少なかった。「否定派」は1年未満(35.7%)や5年未満(32.4%)で多く見られ、これらの層では3割を上回った。なお、「そう思わない」は2年未満(14.3%)と5年未満(11.8%)で1割を上回った。また、「どちらともいえない」は1年未満(50.0%)と2年未満(42.9%)で多く見られた。
- ◇ 職業別では、「そう思う」は自営業(55.0%)が最も多く、次いで主婦・主夫(パートなど)(54.2%)、無職(54.1%)、主婦・主夫(専業)(53.5%)と続き、これらの職業層では5割を上回った。「肯定派」も自営業(85.3%)で最も多く、次いで無職(83.7%)と続き、これらの層で8割を上回った。最も少ないのは学生(46.2%)で、次いで自由業(50.0%)とこれらの層は5割以下であった。「否定派」は自由業(25.0%)や学生(23.1%)で特に多く、この2職業は2割を上回った。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「そう思う」は門司区(53.3%)で最も多く、八幡東区(45.8%)で最も少なかったが、その差は7.5ポイントと、地区による大きな差は見られなかった。「肯定派」は八幡東区(85.6%)で最も多く、次いで門司区(85.2%)と、この2区で8割を上回り、小倉南区(73.6%)で最も少なかった。「否定派」は戸畑区(9.8%)で最も多く、若松区(3.1%)で最も少なかった。
行政区を18地区に細分化して見ると、「そう思う」は門司(東部)地区(58.1%)で最も多く、次いで上津役地区(56.5%)、門司(大里)地区(55.9%)と続いた。八幡東(西部)地区(41.9%)が最も少なかったが、全ての地区で4割を上回った。「肯定派」は門司(大里)地区(89.2%)で最も多く、次いで八幡東(東部)地区(85.7%)、八幡東(西部)地区(85.4%)、上津役地区(84.7%)、門司港地区(81.6%)で8割を上回った。城野地区(72.2%)が最も少なかったが、全ての地区で7割を上回った。「否定派」は、徳力地区(11.6%)で最も多く、唯一1割を上回り、最も少ない門司(東部)地区は0.0%であった。

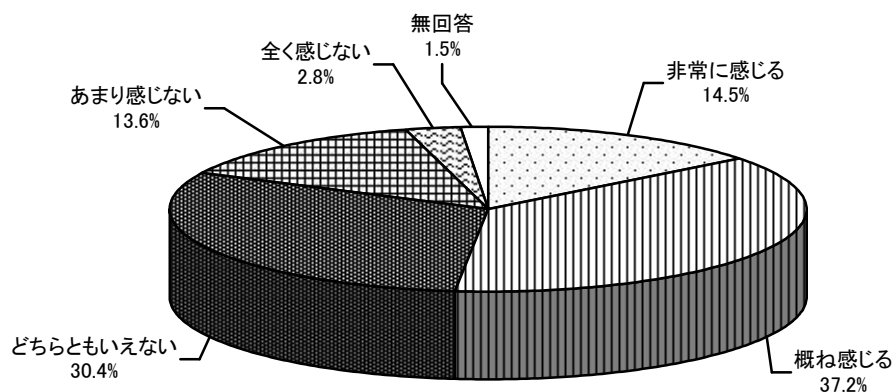
(17) 市への誇りや自信について

問 18 あなたは、北九州市に誇りや自信を感じますか。次の中から1つだけ選んでください。

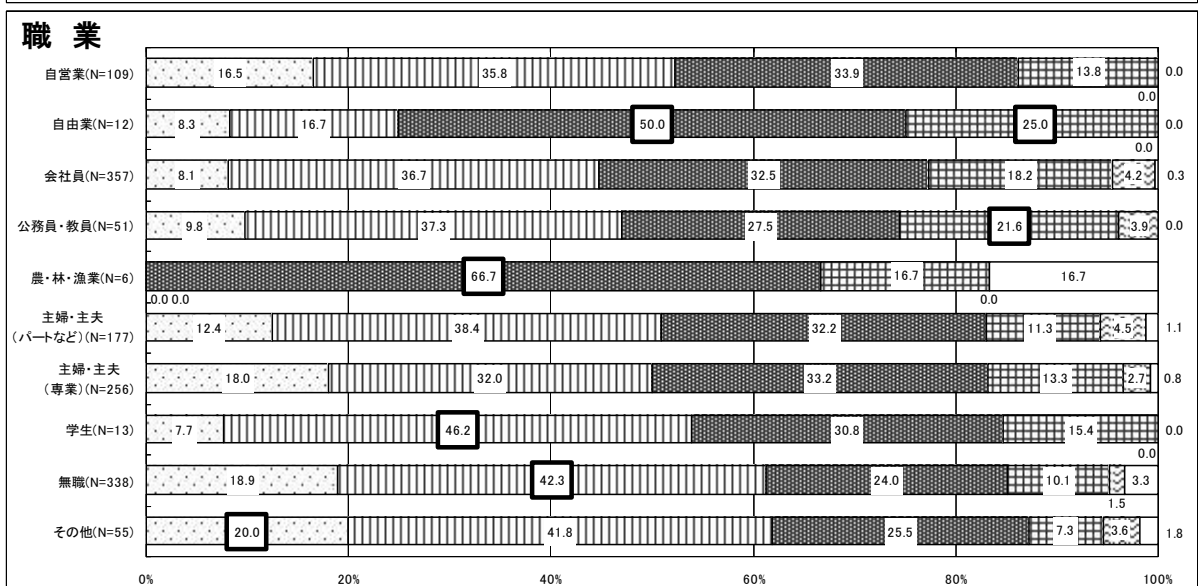
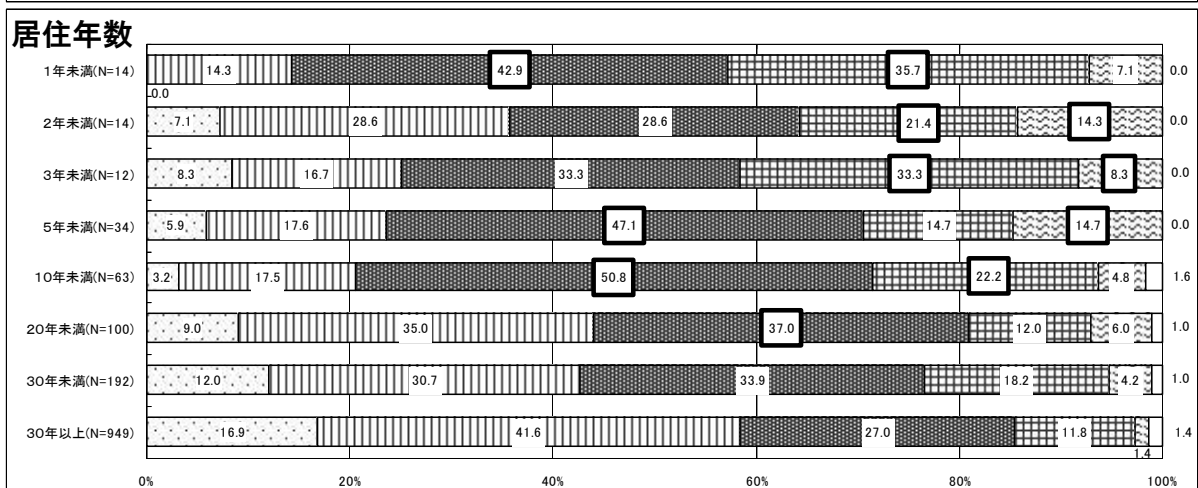
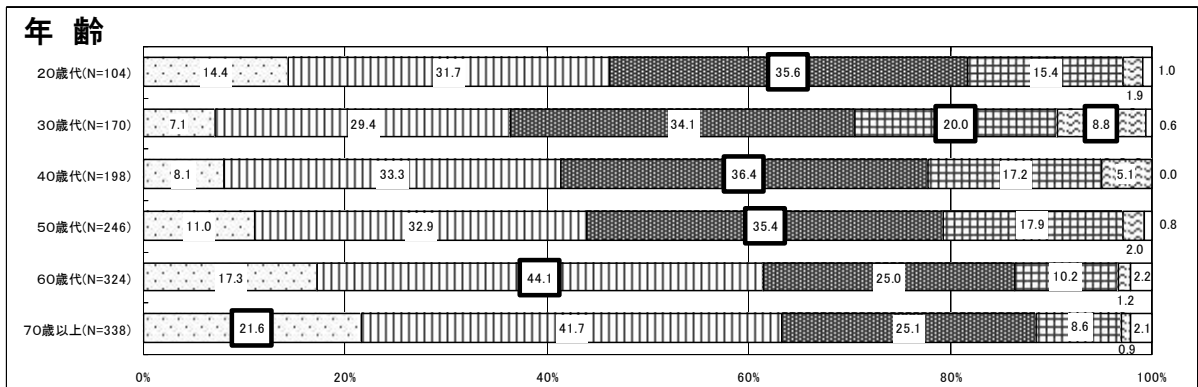
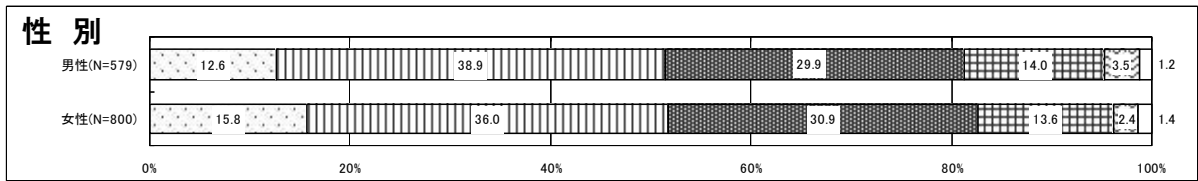
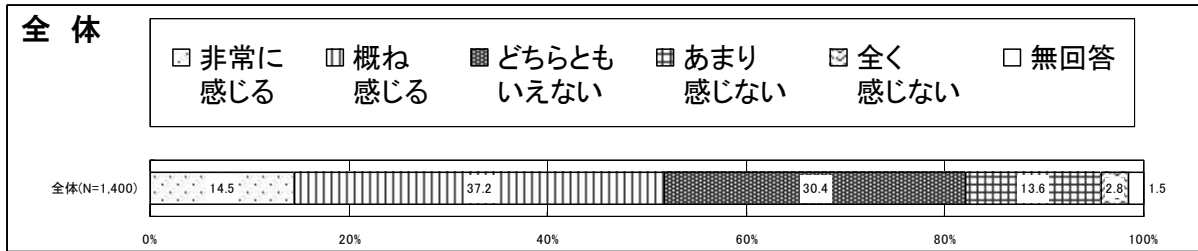
N : 1,400 人

| 項目 | 回答数 (人) | 割合 (%) |
|-------------|---------|--------|
| 1 非常に感じる | 203 | 14.5 |
| 2 概ね感じる | 521 | 37.2 |
| 3 どちらともいえない | 425 | 30.4 |
| 4 あまり感じない | 191 | 13.6 |
| 5 全く感じない | 39 | 2.8 |
| 無回答 | 21 | 1.5 |

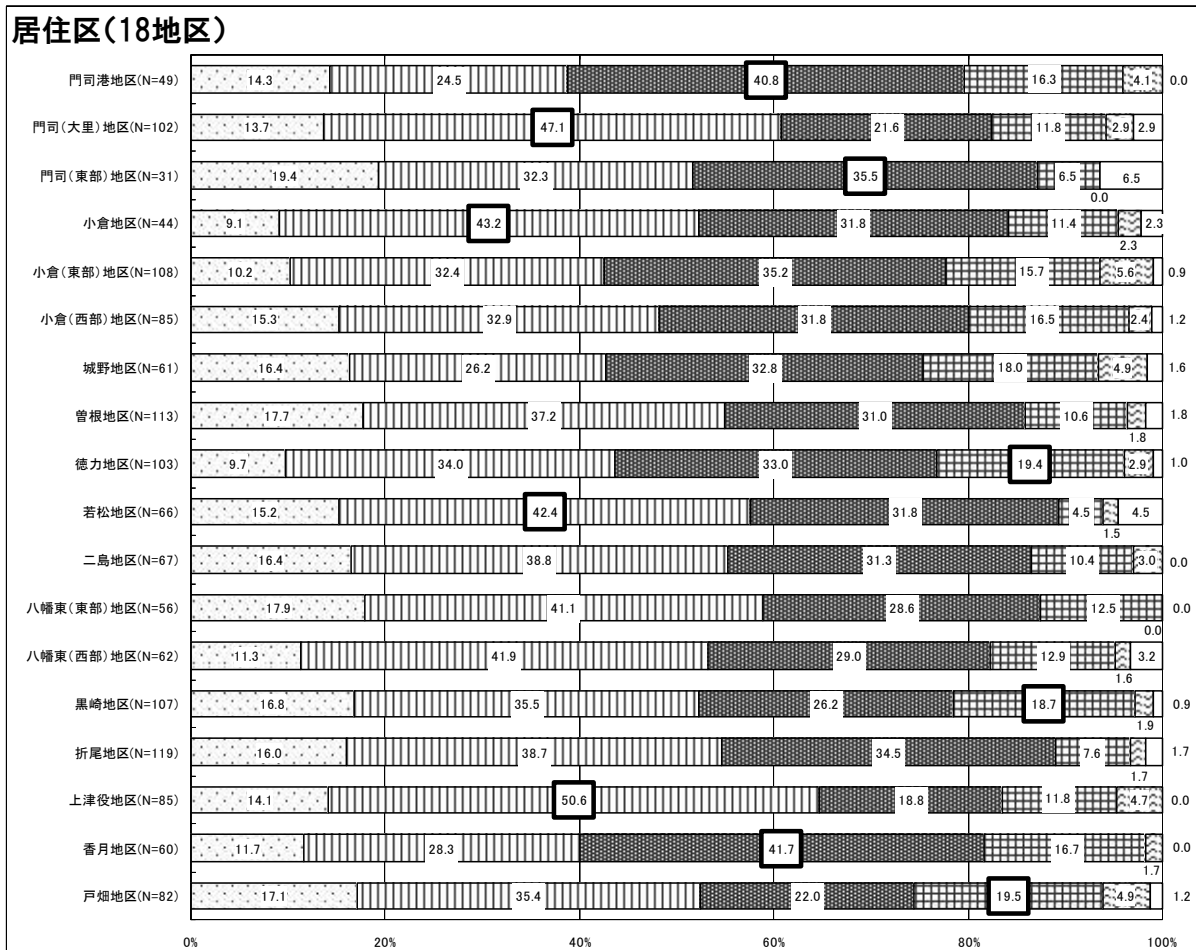
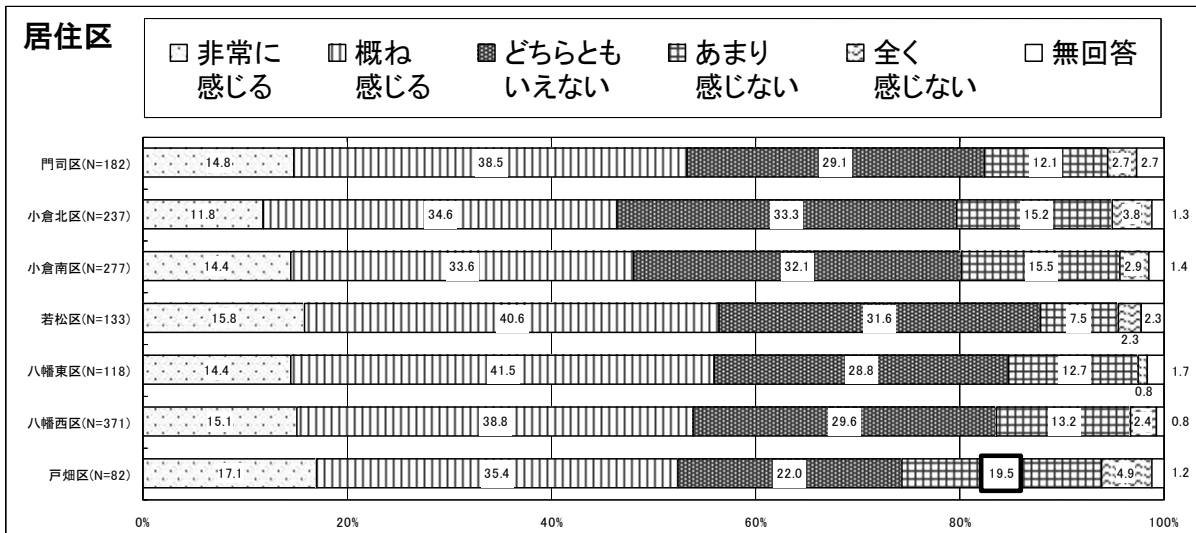
◇ 北九州市に誇りや自信を「概ね感じる」(37.2%)が4割弱で最多。次いで、「どちらともいえない」(30.4%)が約3割。



問 18 市への誇りや自信について



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

市への誇りや自信について

【全体的傾向】

次に、北九州市に誇りや自信を感じるかどうか市民に尋ねてみた。

その結果、「概ね感じる」が37.2%で最も多く、次いで「どちらともいえない」(30.4%)、「非常に感じる」(14.5%)と続いた。肯定意見の「概ね感じる」と積極的肯定の「非常に感じる」を合わせた「肯定派」は51.7%となり、5割を上回った。否定意見の「あまり感じない」(13.6%)と強い否定意見の「全く感じない」(2.8%)を合わせた「否定派」は16.4%となった。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、「概ね感じる」は男性（38.9%）が女性（36.0%）をやや上回った。一方、「非常に感じる」では女性（15.8%）が男性（12.6%）をやや上回り、「肯定派」（男性51.5%、女性51.8%）は男女ほぼ同程度であった。「否定派」は男性（17.5%）が女性（16.0%）をやや上回った。
- ◇ 年齢別では、「概ね感じる」は60歳代（44.1%）で最も多く、次いで70歳以上（41.7%）と続き、60歳以上で4割を上回った。「非常に感じる」は、70歳以上（21.6%）で最も多く、唯一2割を上回った。「肯定派」は70歳以上（63.3%）で最も多く、次いで60歳以上（61.4%）と、60歳以上で6割を上回ったが、20歳代から50歳代の各年齢層は5割を下回っており、年齢層による差が見られた。一方、「否定派」は30歳代（28.8%）が最も多く、次いで40歳代（22.3%）と、これらの層で2割を上回った。
- ◇ 居住年数別では、「概ね感じる」は30年以上（41.6%）で最も多く、次いで20年未満（35.0%）、30年未満（30.7%）と続き、これらの層で3割を上回った。また、「非常に感じる」も30年以上（16.9%）で最も多かった。「肯定派」は30年以上（58.5%）で最も多く、唯一5割を上回った。次いで、20年未満（44.0%）、30年未満（42.7%）と続き、居住年数が長い層で割合が高かった。一方、「否定派」は1年未満（42.8%）で最も多く、次いで3年未満（41.6%）、2年未満（35.7%）と続き、居住年数が短い層で割合が高かった。また、「全く感じない」では、5年未満（14.7%）と2年未満（14.3%）で1割を上回った。
- ◇ 職業別では、「概ね感じる」は学生（46.2%）で最も多く、次いで無職（42.3%）、その他（41.8%）と続き、これらの職業層で4割を上回った。「非常に感じる」は「その他」（20.0%）で最も多かった。「肯定派」はその他（61.8%）と無職（61.2%）で6割を上回る一方、自由業（25.0%）は3割を下回り、職業層で違いが見られた。「否定派」は公務員・教員（25.5%）で最も多く、次いで自由業（25.0%）、会社員（22.4%）と続き、これらの職業層で2割を上回った。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「概ね感じる」は八幡東区（41.5%）で最も多く、小倉南区（33.6%）で最も少なかったが、その差は7.9ポイントと地区による大きな差は見られなかった。「非常に感じる」は戸畑区（17.1%）で最も多かった。「肯定派」は、若松区（56.4%）で最も多く、最も少なかった小倉北区（46.4%）及び小倉南区（48.0%）では5割を下回った。一方、「否定派」は戸畑区（24.4%）が最も多く唯一2割を上回り、若松区（9.8%）が最も少なかった。

行政区を18地区に細分化して見ると、「肯定派」は上津役地区（64.7%）で最も多く、次いで門司（大里）地区（60.8%）と、これら2地区で6割を上回った。最も少なかったのは門司港地区（38.8%）で、唯一4割を下回った。「非常に感じる」は門司（東部）地区（19.4%）で最も多かった。一方、「否定派」は戸畑地区（24.4%）で最も多く、次いで城野地区（23.0%）、徳力地区（22.3%）と続いた。最も少なかったのは若松地区（6.1%）で、次いで門司（東部）地区（6.5%）、折尾地区（9.2%）と続き、この3地区は1割を下回った。

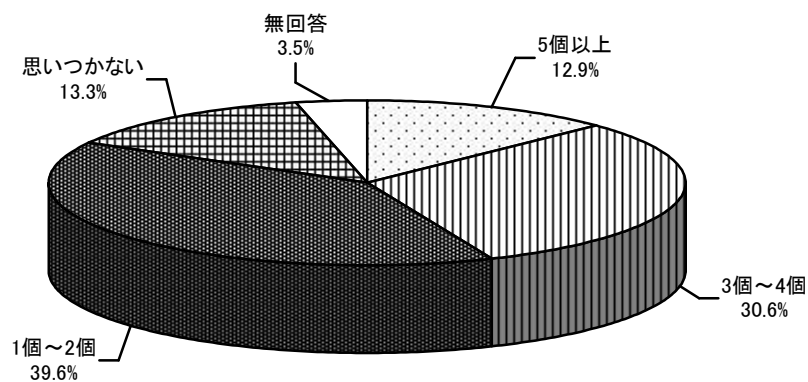
(18) 市の魅力について

問 19 あなたは、市外からの来訪者に対して、北九州市の魅力をいくつ伝えることができますか。次の中から1つだけ選んでください。

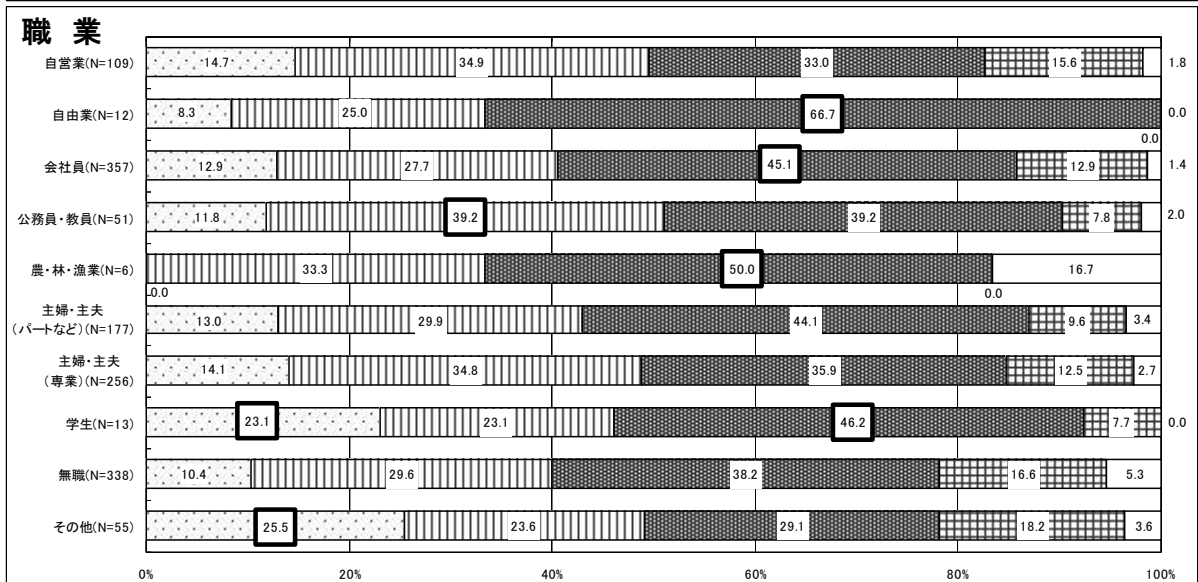
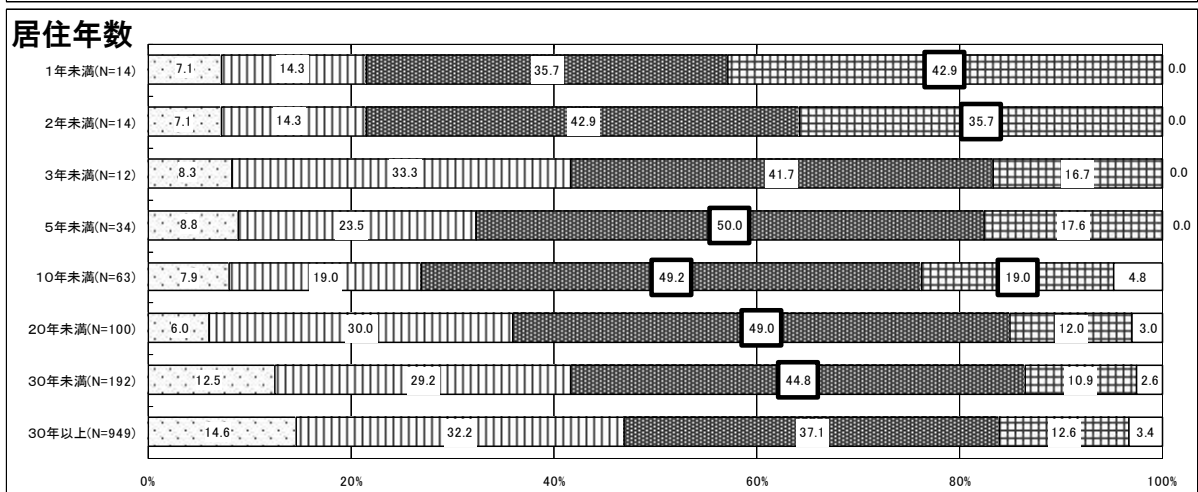
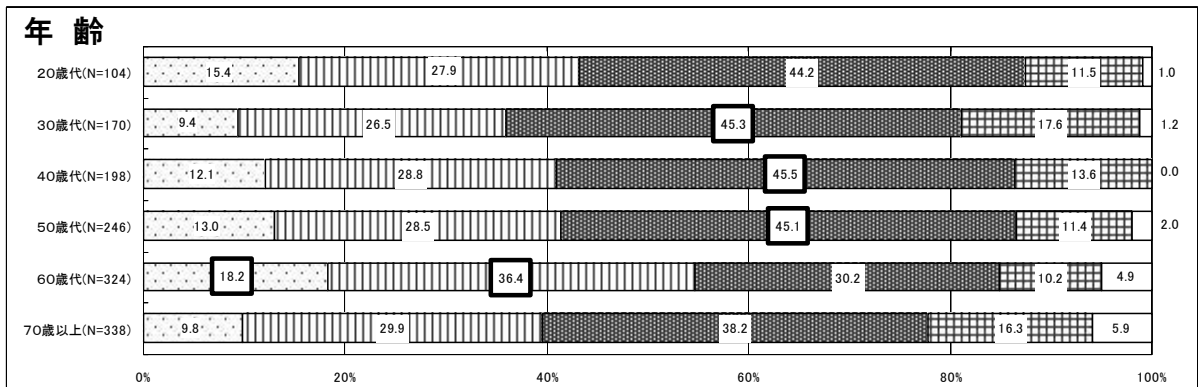
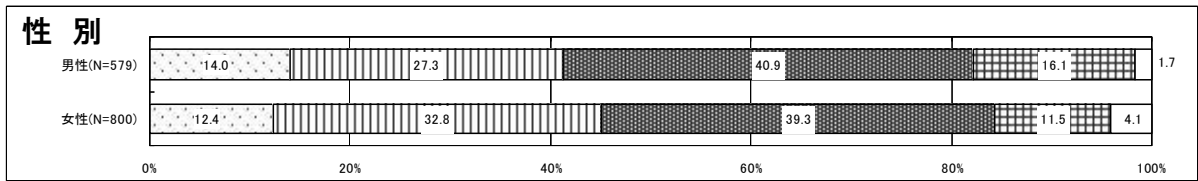
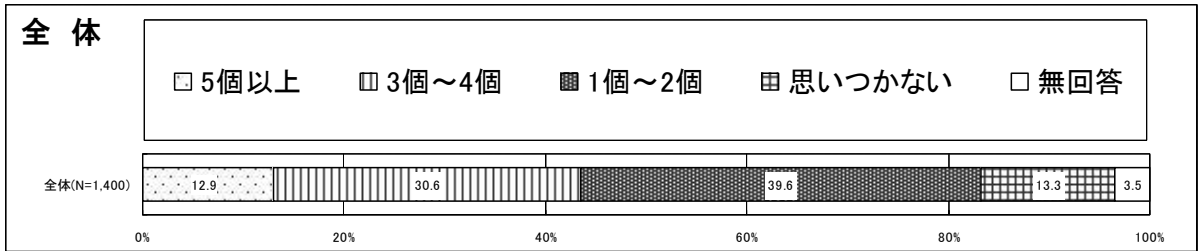
N : 1,400 人

| 項目 | 回答数 (人) | 割合 (%) |
|----------|---------|--------|
| 1 5個以上 | 181 | 12.9 |
| 2 3個～4個 | 429 | 30.6 |
| 3 1個～2個 | 555 | 39.6 |
| 4 思いつかない | 186 | 13.3 |
| 無回答 | 49 | 3.5 |

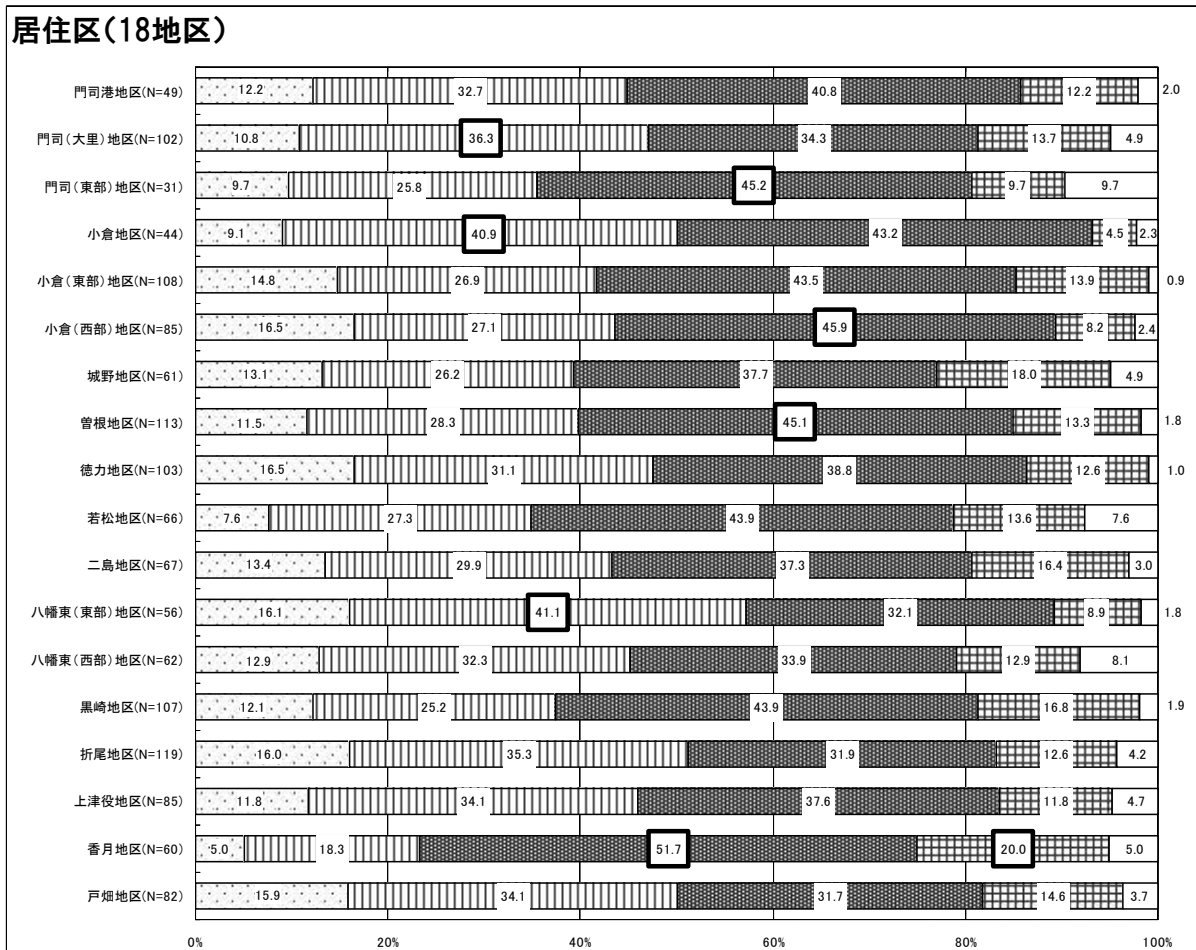
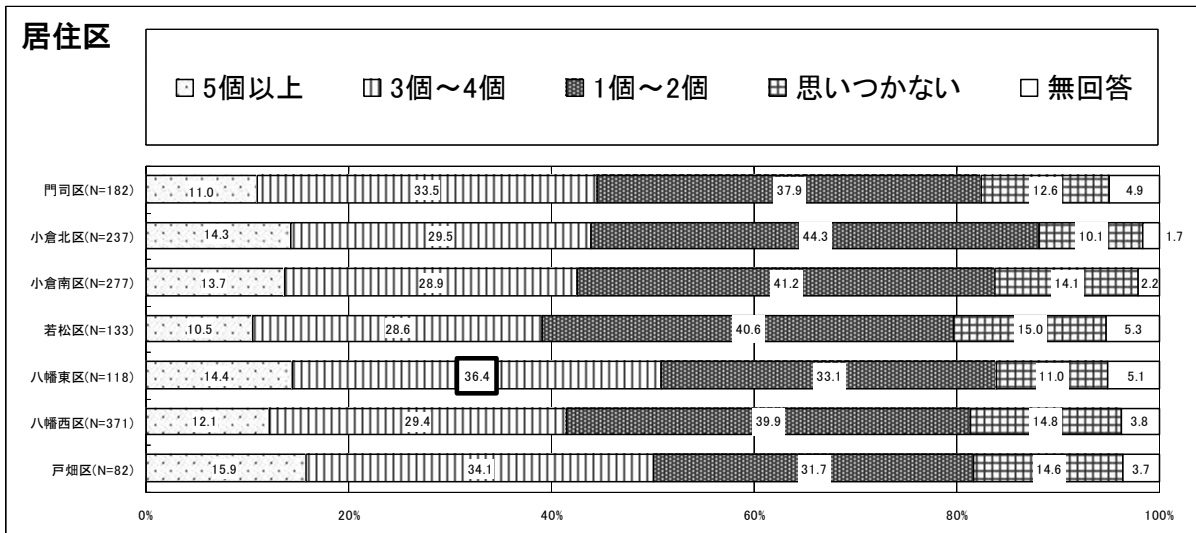
- ◇ 「1個～2個」(39.6%) が約4割で最多。次いで、「3個から4個」(30.6%) が約3割。
- ◇ 「思いつかない」(13.3%) は1割強。



問 19 市の魅力について



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

本市の魅力について

【全体的傾向】

この設問では、市外からの来訪者に対して、北九州市の魅力をいくつ伝えることができるかを尋ねてみた。

結果は、「1個～2個」(39.6%)が最も多く、ほぼ4割を占めた。次いで、「3個～4個」(30.6%)、「思いつかない」(13.3%)、「5個以上」(12.9%)と続いた。「思いつかない」を除いた「可能層」は、83.1%であった。

【 属 性 別 に み た 傾 向 】

- ◇ 性別では、男女とも「1個～2個」（男性40.9%、女性39.3%）が最も多かった。「3個～4個」は女性（32.8%）が男性（27.3%）を上回り、「5個以上」では、男性（14.0%）が女性（12.4%）を上回った。「可能層」は、女性（84.5%）が男性（82.2%）を上回った。「思いつかない」は、男性（16.1%）が女性（11.5%）を上回った。
- ◇ 年齢別では、「1個～2個」は、40歳以上（45.5%）で最も多く、次いで、30歳代（45.3%）、50歳代（45.1%）と続いた。「5個以上」は60歳代（18.2%）、「3個～4個」も60歳代（36.4%）で最も多かった。「可能層」は、20歳代（87.5%）で最も多く、最も少ない70歳以上（77.9%）のみ、8割を下回った。「思いつかない」は30歳代（17.6%）で最も多く、60歳代（10.2%）が最も少なかった。
- ◇ 居住年数別では、「5個以上」は30年以上（14.6%）で最も多く、次いで30年未満（12.5%）で1割を上回った。「3個～4個」では3年未満（33.3%）と30年以上（32.2%）で多かった。「1個～2個」は5年未満（50.0%）で最も多く、次いで10年未満（49.2%）、20年未満（49.0%）と続いた。「可能層」は、30年未満（86.5%）で最も多く、最も少ない1年未満（57.1%）、2年未満（64.3%）、10年未満（76.1%）以外の層で8割を上回った。一方、「思いつかない」は1年未満（42.9%）が最も多く、2年未満（35.7%）がその後続き、居住年数が短い層での割合が多かった。
- ◇ 職業別では、「5個以上」はその他（25.5%）と学生（23.1%）で多く、2割を上回った。「3個～4個」は公務員・教員（39.2%）が最も多く、「1個～2個」は自由業（66.7%）が目立って多かった。「可能層」は、自由業（100.0%）で最も多く、次いで学生（92.4%）、公務員・教員（90.2%）と続いた。一方、「思いつかない」は、その他（18.2%）で最も多く、次いで無職（16.6%）、自営業（15.6%）で比較的多かったが、自由業は0.0%であった。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「5個以上」は戸畑区（15.9%）で最も多かった。「3個～4個」は八幡東区（36.4%）で最も多く、次いで戸畑区（34.1%）、門司区（33.5%）と続き、これら3区で3割を上回った。「1個～2個」は小倉北区（44.3%）が最も多かった。「可能層」は、小倉北区（88.1%）で最も多く、最も少ない若松区（79.7%）のみ8割を下回った。「思いつかない」は若松区（15.0%）が最も多かったが、最も少ない小倉北区（10.1%）とは4.9ポイント差と、大きな差は見られなかった。

行政区を18地区に細分化して見ると、「5個以上」は小倉（西部）地区及び徳力地区（ともに16.5%）で最も多かった。「3個～4個」は八幡東（東部）地区（41.1%）と小倉地区（40.9%）で多く見られ、4割を上回った。「1個～2個」は香月地区（51.7%）で最も多かった。「可能層」は、小倉地区（93.2%）で最も多く、次いで小倉（西部）地区（89.5%）、八幡東（東部）地区（89.3%）と続いた。「思いつかない」は香月地区（20.0%）が最も多く、次いで城野地区（18.0%）、黒崎地区（16.8%）、二島地区（16.4%）と続いた。

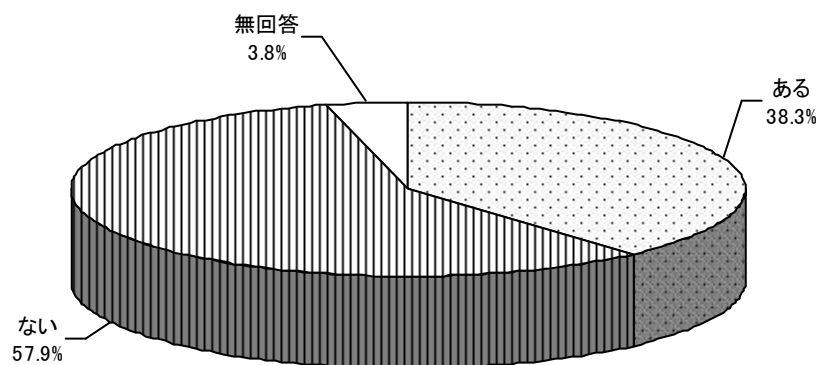
(19) 来訪者へのおもてなしの気持ちについて

問 20 あなたは、市外からの来訪者に対して、道を教える、名産品を教えるなどの「おもてなしの気持ち」を持って交流をしたことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

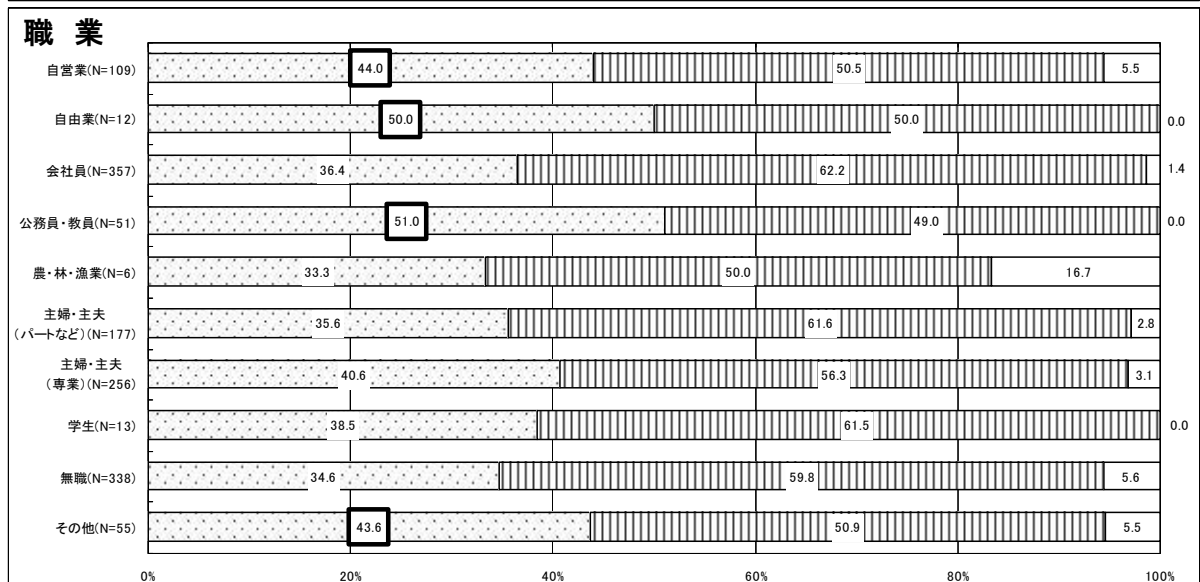
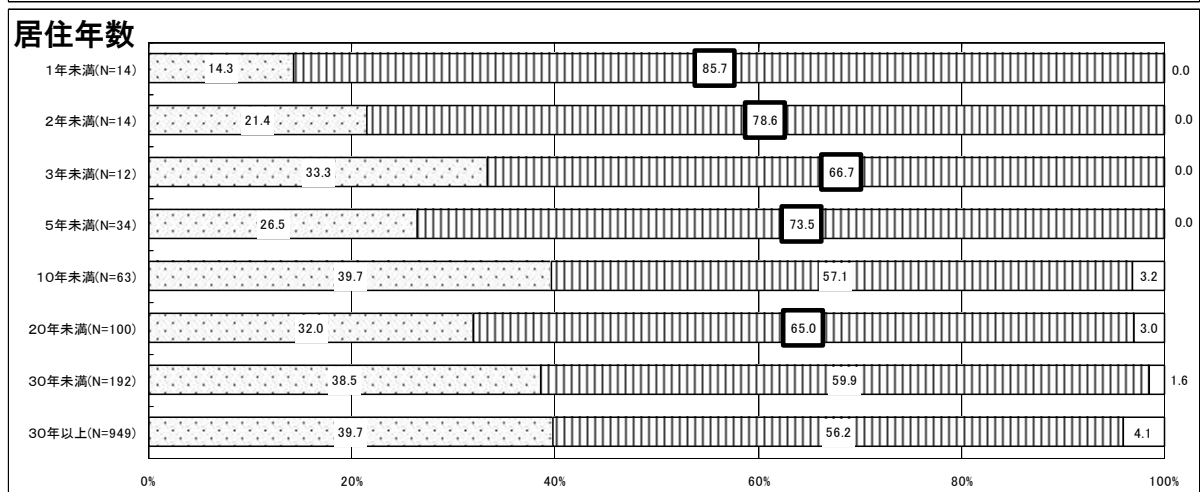
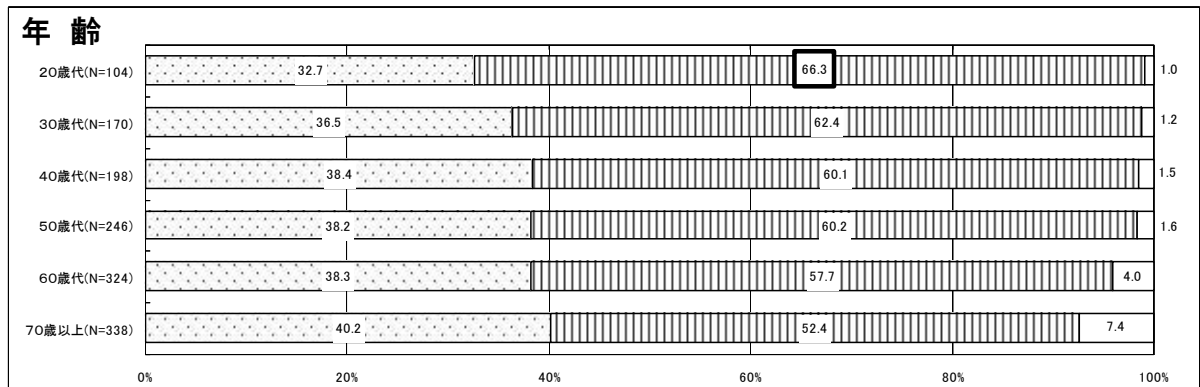
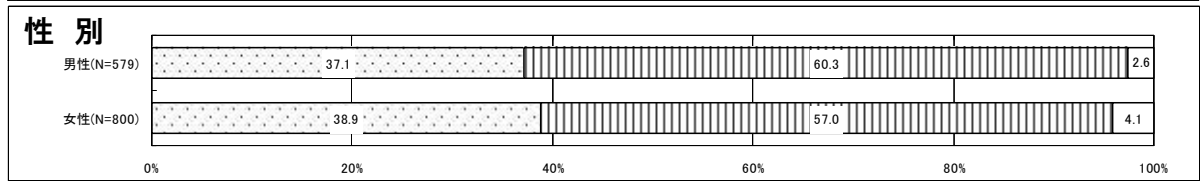
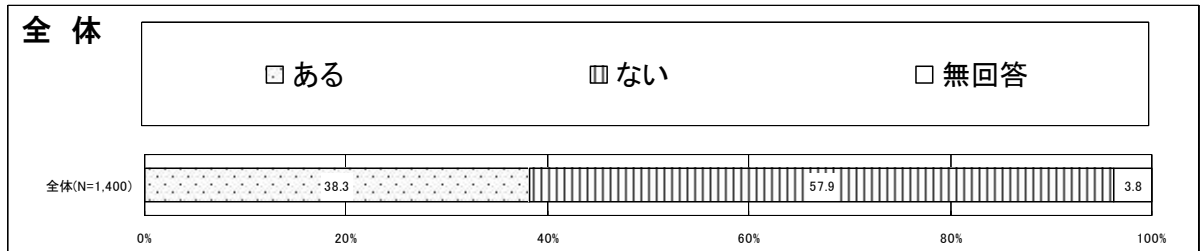
N : 1,400 人

| 項目 | 回答数 (人) | 割合 (%) |
|------|---------|--------|
| 1 ある | 536 | 38.3 |
| 2 ない | 811 | 57.9 |
| 無回答 | 53 | 3.8 |

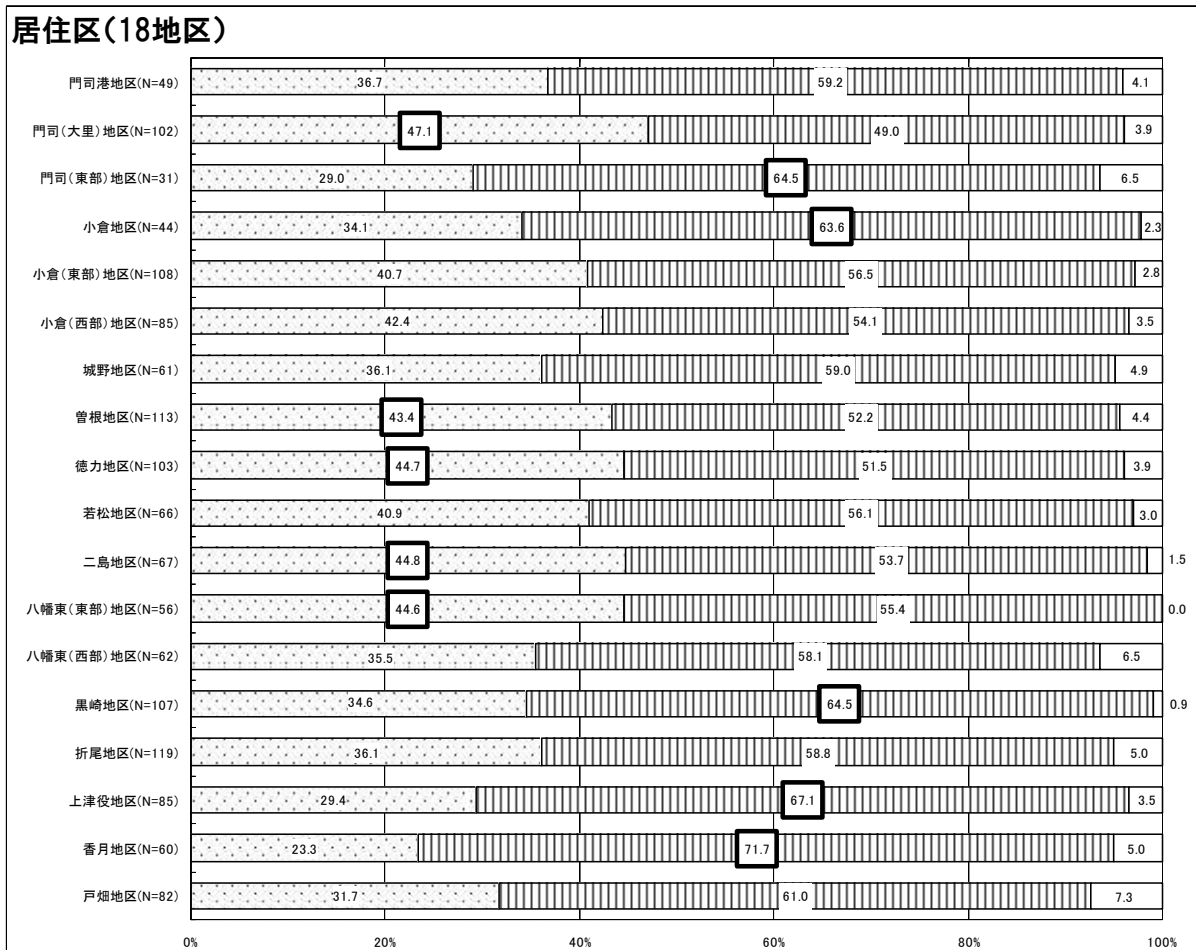
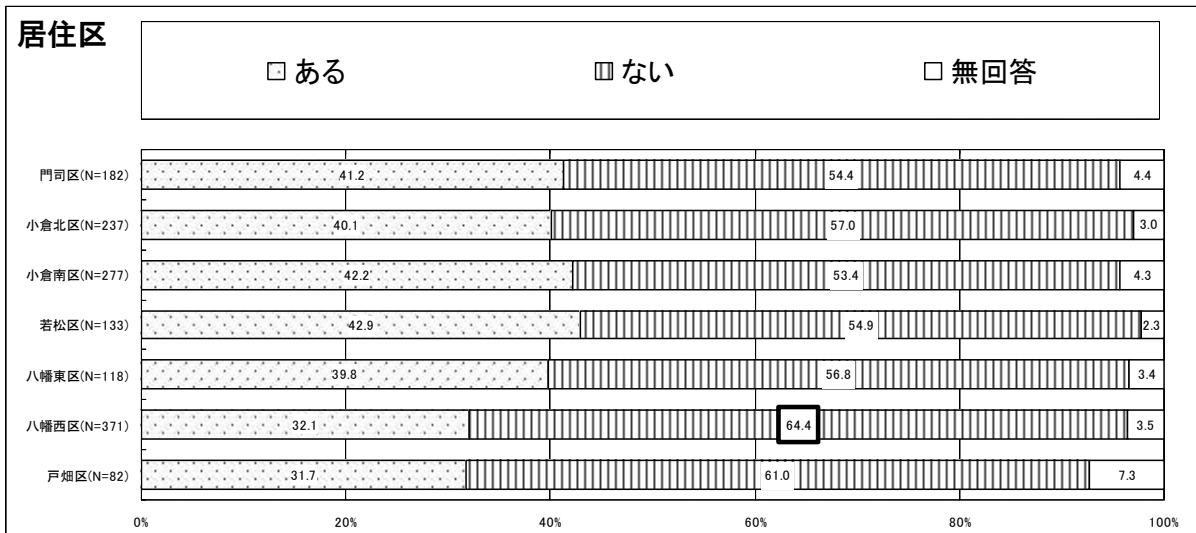
◇ 4割弱の市民が、来訪者とおもてなしの気持ちを持って交流したことが「ある」。



問 20 来訪者へのおもてなしの気持ちについて



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

来訪者へのおもてなしの気持ちについて

【全体的傾向】

次に、市外からの来訪者に「おもてなしの気持ち」を持って、交流したことがあるかについて尋ねてみた。

結果は、「ない」の方が多く、57.9%と5割を上回り、「ある」は38.3%と4割弱であった。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、「ある」は女性（38.9%）が男性（37.1%）をやや上回ったが、大きな差は見られなかった。
- ◇ 年齢別では、「ある」は70歳以上（40.2%）で最も多く、20歳代（32.7%）で最も少なく、やや年齢層が上がるにつれて「ある」の比率が多くなる傾向が見られたが、その差は7.5ポイントと大きな差は見られなかった。
- ◇ 居住年数別では、「ある」は10年未満及び30年以上（ともに39.7%）で最も多く、次に30年未満（38.5%）、3年未満（33.3%）と続いた。一方、最も少ないのは1年未満（14.3%）で、次いで2年未満（21.4%）となっており、比較的居住年数が長い層で「ある」が多い傾向にあった。
- ◇ 職業別では、「ある」は公務員・教員（51.0%）で最も多く、次いで自由業（50.0%）、自営業（44.0%）、その他（43.6%）と続いた。一方、最も少ないのは無職（34.6%）であった。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、若松区（42.9%）が最も多く、次いで小倉南区（42.2%）、門司区（41.2%）と続いた。最も少ないのは戸畑区（31.7%）であった。

行政区を18地区に細分化して見ると、「ある」は門司（大里）地区（47.1%）が最多となり、後に二島地区（44.8%）、徳力地区（44.7%）、八幡東（東部）地区（44.6%）と続いた。一方、少なかったのは、香月地区（23.3%）、門司（東部）地区（29.0%）、上津役地区（29.4%）で、これら3地区では3割を下回った。

(19) - 1 おもてなしの気持ちによる具体的な交流について

副問 20-1 問 20 で「1 ある」とお答えした方におたずねします。
それは具体的にどんなことですか。自由にお書きください。

次に、問 20 で市外からの来訪者に「おもてなしの気持ち」を持って、交流したことがあると答えた市民に、具体的にどんなことかを尋ねてみたところ、主に以下のような回答があった。

- 名所を案内した・教えた。
- 美味しいものを紹介した。
- 美味しい店を紹介した。
- 道を教えた。
- 市の良いところを教えた。
- 祭りなどのイベントを教えた。
- 市の歴史などを教えた。
- 名産を土産に渡した。

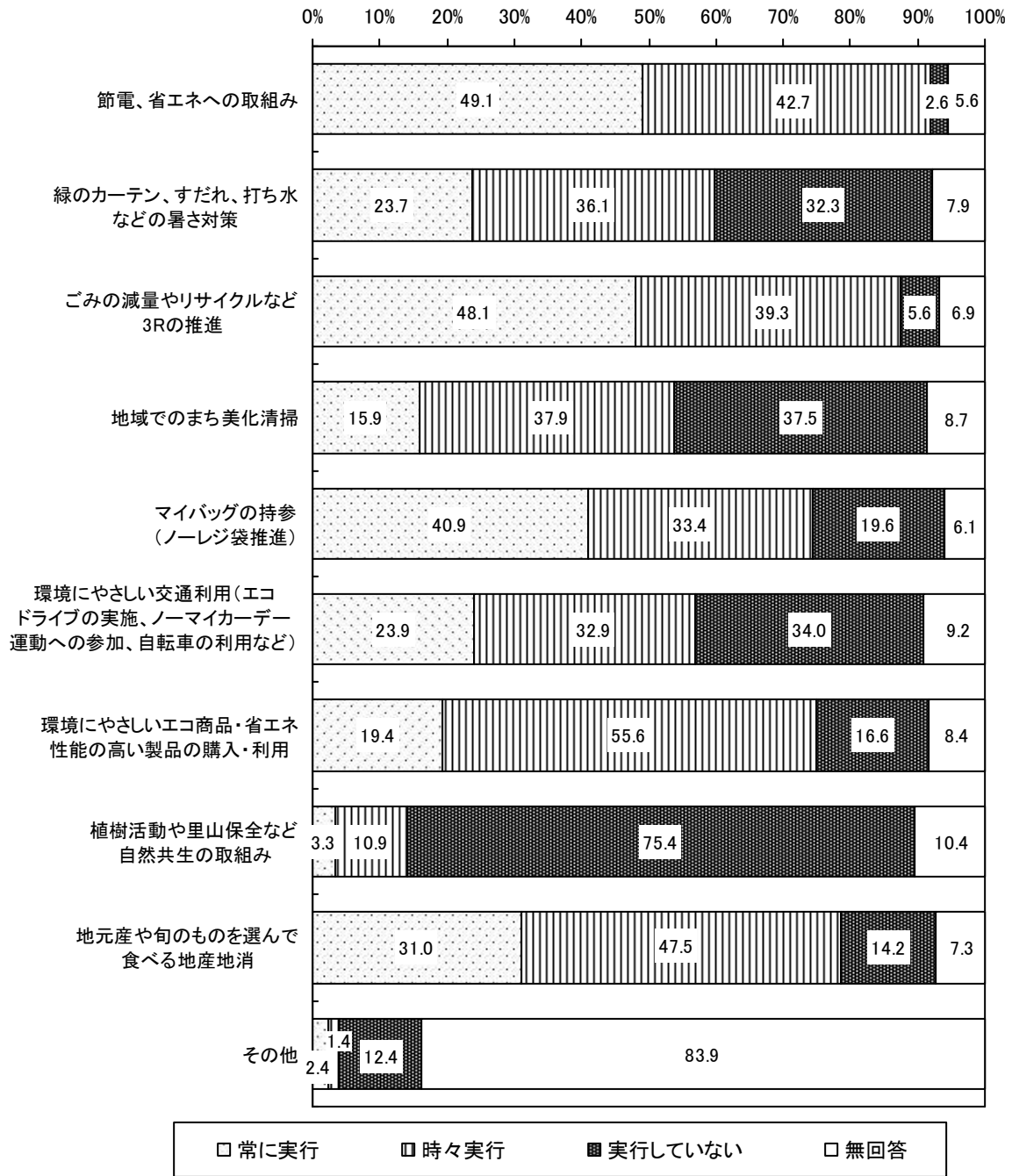
(20) 環境保全の取組みについて

問 21 地球温暖化など地球規模での環境問題の解決には、一人ひとりがライフスタイルを見直し、環境にやさしい行動を実行することが必要です。あなたは、毎日の暮らしの中で、どのような環境活動を実行していますか。次の項目（A～J）について、それぞれの行動ごとに、「1. 常に行っている。2. 時々実行している。3. 実行していない。」の中から、1つだけ○を付けてください。

N : 1,400 人

| 項目 | 常に行っている | 時々実行している | 実行していない | 無回答 |
|--|---------|----------|---------|-------|
| A 節電、省エネへの取組み | 687 | 598 | 36 | 79 |
| | 49.1 | 42.7 | 2.6 | 5.6 |
| B 緑のカーテン、すだれ、打ち水などの暑さ対策 | 332 | 506 | 452 | 110 |
| | 23.7 | 36.1 | 32.3 | 7.9 |
| C ごみの減量やリサイクルなど3Rの推進 | 674 | 550 | 79 | 97 |
| | 48.1 | 39.3 | 5.6 | 6.9 |
| D 地域でのまち美化清掃 | 223 | 530 | 525 | 122 |
| | 15.9 | 37.9 | 37.5 | 8.7 |
| E マイバッグの持参（ノーレジ袋推進） | 573 | 467 | 274 | 86 |
| | 40.9 | 33.4 | 19.6 | 6.1 |
| F 環境にやさしい交通利用（エコドライブの実施、ノーマイカーデー運動への参加、自転車の利用など） | 334 | 461 | 476 | 129 |
| | 23.9 | 32.9 | 34.0 | 9.2 |
| G 環境にやさしいエコ商品・省エネ性能の高い製品の購入・利用 | 272 | 778 | 232 | 118 |
| | 19.4 | 55.6 | 16.6 | 8.4 |
| H 植樹活動や里山保全など自然共生の取組み | 46 | 153 | 1,056 | 145 |
| | 3.3 | 10.9 | 75.4 | 10.4 |
| I 地元産や旬のものを選んで食べる 地産地消 | 434 | 665 | 199 | 102 |
| | 31.0 | 47.5 | 14.2 | 7.3 |
| J その他 | 33 | 19 | 173 | 1,175 |
| | 2.4 | 1.4 | 12.4 | 83.9 |

◇ 「常に行っている」では「節電、省エネへの取組み」（49.1%）が約5割で最多。「常に行っている」と「時々実行」を合わせた「実行層」（91.8%）でも9割強で最多。



問 21 属性別にみた環境活動の「常に実行している」の割合

| | | サンプル数 | 取 節 電 省 エ ネ への 組 み | の だ れ の 暑 さ 対 策 | 緑 の カ ー テ ン、 す | 推 進 イ ク ル な ど 3 R の サ | 清 掃 地 域 で の ま ち 美 化 | 進 マ イ バ ッ グ の 持 参 （ ノ ー レ ジ 袋 の 推 参 | 環 境 に や さ し い 交 通 利 用 （ エ コ ド ラ | 入 能 コ 商 環 境 に や さ し い エ ネ の 購 入 ・ 利 用 （ 高 い 製 品 の 購 | 取 組 み 全 樹 活 動 や 里 山 保 全 な ど 自 然 共 生 の | 産 地 元 産 や 旬 の も の を 選 ん で 食 べ る 地 消 |
|---|--------------|---------|--|--------------------------------------|----------------------------------|---|--|--|--|--|---|--|
| 全体 | | 1,400 | 49.1 | 23.7 | 48.1 | 15.9 | 40.9 | 23.9 | 19.4 | 3.3 | 31.0 | |
| 性 別 | 男性 | 579 | 43.7 | 17.8 | 42.0 | 13.8 | 32.6 | 22.3 | 15.2 | 2.8 | 19.5 | |
| | 女性 | 800 | 53.6 | 28.4 | 53.3 | 17.6 | 47.5 | 25.3 | 22.8 | 3.8 | 39.5 | |
| 年 齢 別 | 20歳代 | 104 | 44.2 | 12.5 | 30.8 | 8.7 | 29.8 | 30.8 | 21.2 | 5.8 | 19.2 | |
| | 30歳代 | 170 | 40.0 | 12.4 | 34.7 | 5.9 | 34.7 | 20.6 | 20.6 | 2.4 | 21.8 | |
| | 40歳代 | 198 | 51.0 | 19.2 | 44.9 | 7.1 | 35.4 | 23.2 | 16.2 | 1.5 | 26.8 | |
| | 50歳代 | 246 | 44.7 | 23.6 | 50.0 | 15.4 | 44.3 | 25.2 | 22.8 | 1.6 | 33.3 | |
| | 60歳代 | 324 | 54.9 | 31.2 | 56.8 | 21.6 | 46.9 | 24.4 | 22.2 | 5.6 | 36.4 | |
| | 70歳以上 | 338 | 53.0 | 29.3 | 54.1 | 23.7 | 43.8 | 22.8 | 15.7 | 3.3 | 35.2 | |
| 居 住 年 数 別 | 1年未満 | 14 | 50.0 | 14.3 | 28.6 | 7.1 | 21.4 | 28.6 | 21.4 | 0.0 | 28.6 | |
| | 2年未満 | 14 | 64.3 | 21.4 | 42.9 | 14.3 | 57.1 | 42.9 | 7.1 | 0.0 | 14.3 | |
| | 3年未満 | 12 | 41.7 | 8.3 | 33.3 | 0.0 | 33.3 | 16.7 | 25.0 | 0.0 | 8.3 | |
| | 5年未満 | 34 | 50.0 | 5.9 | 35.3 | 5.9 | 44.1 | 26.5 | 14.7 | 2.9 | 17.6 | |
| | 10年未満 | 63 | 41.3 | 17.5 | 44.4 | 12.7 | 41.3 | 30.2 | 20.6 | 6.3 | 28.6 | |
| | 20年未満 | 100 | 49.0 | 24.0 | 53.0 | 13.0 | 49.0 | 33.0 | 18.0 | 3.0 | 29.0 | |
| | 30年未満 | 192 | 49.5 | 18.8 | 43.2 | 13.0 | 32.8 | 26.6 | 19.8 | 4.2 | 27.6 | |
| | 30年以上 | 949 | 49.9 | 26.3 | 50.5 | 17.9 | 42.3 | 21.8 | 19.9 | 3.2 | 33.3 | |
| 職 業 別 | 自営業 | 109 | 45.0 | 11.9 | 47.7 | 15.6 | 32.1 | 17.4 | 14.7 | 4.6 | 27.5 | |
| | 自由業 | 12 | 58.3 | 33.3 | 33.3 | 16.7 | 33.3 | 16.7 | 25.0 | 8.3 | 33.3 | |
| | 会社員 | 357 | 42.0 | 16.0 | 37.5 | 8.7 | 32.5 | 25.8 | 21.3 | 2.0 | 23.2 | |
| | 公務員・教員 | 51 | 52.9 | 15.7 | 39.2 | 3.9 | 39.2 | 19.6 | 13.7 | 0.0 | 29.4 | |
| | 農・林・漁業 | 6 | 33.3 | 16.7 | 100.0 | 16.7 | 33.3 | 0.0 | 16.7 | 0.0 | 66.7 | |
| | 主婦・主夫(パートなど) | 177 | 53.7 | 29.9 | 57.6 | 18.6 | 47.5 | 24.9 | 22.0 | 3.4 | 31.1 | |
| | 主婦・主夫(専業) | 256 | 57.0 | 33.6 | 55.5 | 18.4 | 52.3 | 23.8 | 23.0 | 4.3 | 44.1 | |
| | 学生 | 13 | 53.8 | 15.4 | 30.8 | 23.1 | 53.8 | 61.5 | 30.8 | 23.1 | 30.8 | |
| | 無職 | 338 | 53.0 | 27.5 | 53.6 | 22.2 | 42.6 | 22.8 | 15.1 | 3.6 | 30.2 | |
| | その他 | 55 | 34.5 | 21.8 | 41.8 | 18.2 | 40.0 | 32.7 | 23.6 | 1.8 | 32.7 | |
| 居 住 区 別 | 行 政 区 別 | 門司区 | 182 | 48.9 | 20.9 | 50.0 | 12.1 | 39.6 | 22.0 | 19.2 | 3.3 | 30.2 |
| | | 小倉北区 | 237 | 43.0 | 17.7 | 44.7 | 12.2 | 35.9 | 32.1 | 20.7 | 1.7 | 28.3 |
| | | 小倉南区 | 277 | 49.1 | 27.8 | 48.7 | 15.9 | 39.7 | 19.5 | 18.8 | 5.1 | 32.1 |
| | | 若松区 | 133 | 54.1 | 25.6 | 50.4 | 19.5 | 41.4 | 18.8 | 23.3 | 7.5 | 42.9 |
| | | 八幡東区 | 118 | 53.4 | 28.0 | 50.8 | 13.6 | 46.6 | 20.3 | 17.8 | 2.5 | 31.4 |
| | | 八幡西区 | 371 | 49.1 | 23.7 | 48.8 | 20.2 | 42.3 | 25.3 | 19.4 | 1.9 | 28.0 |
| | | 戸畑区 | 82 | 52.4 | 24.4 | 41.5 | 13.4 | 47.6 | 25.6 | 14.6 | 2.4 | 30.5 |
| 居 住 区 別 （ 18 地 区 別 ） | 門 司 区 | 門司港 | 49 | 44.9 | 24.5 | 46.9 | 12.2 | 40.8 | 24.5 | 12.2 | 6.1 | 28.6 |
| | | 門司(大里) | 102 | 52.0 | 19.6 | 50.0 | 9.8 | 43.1 | 26.5 | 22.5 | 1.0 | 31.4 |
| | | 門司(東部) | 31 | 45.2 | 19.4 | 54.8 | 19.4 | 25.8 | 3.2 | 19.4 | 6.5 | 29.0 |
| | 小 倉 北 区 | 小倉 | 44 | 38.6 | 9.1 | 45.5 | 6.8 | 38.6 | 22.7 | 9.1 | 2.3 | 27.3 |
| | | 小倉(東部) | 108 | 43.5 | 18.5 | 44.4 | 11.1 | 35.2 | 34.3 | 20.4 | 0.9 | 25.9 |
| | | 小倉(西部) | 85 | 44.7 | 21.2 | 44.7 | 16.5 | 35.3 | 34.1 | 27.1 | 2.4 | 31.8 |
| | 小 倉 南 区 | 城野 | 61 | 49.2 | 32.8 | 44.3 | 9.8 | 34.4 | 23.0 | 16.4 | 0.0 | 21.3 |
| | | 曾根 | 113 | 47.8 | 27.4 | 48.7 | 22.1 | 45.1 | 21.2 | 17.7 | 6.2 | 34.5 |
| | | 徳力 | 103 | 50.5 | 25.2 | 51.5 | 12.6 | 36.9 | 15.5 | 21.4 | 6.8 | 35.9 |
| | 若 松 区 | 若松 | 66 | 51.5 | 19.7 | 51.5 | 12.1 | 42.4 | 18.2 | 19.7 | 9.1 | 31.8 |
| | | 二島 | 67 | 56.7 | 31.3 | 49.3 | 26.9 | 40.3 | 19.4 | 26.9 | 6.0 | 53.7 |
| | 八 幡 東 区 | 八幡東(東部) | 56 | 58.9 | 26.8 | 50.0 | 8.9 | 44.6 | 16.1 | 19.6 | 1.8 | 35.7 |
| | | 八幡東(西部) | 62 | 48.4 | 29.0 | 51.6 | 17.7 | 48.4 | 24.2 | 16.1 | 3.2 | 27.4 |
| | 八 幡 西 区 | 黒崎 | 107 | 45.8 | 18.7 | 50.5 | 15.0 | 47.7 | 27.1 | 16.8 | 0.9 | 28.0 |
| | | 折尾 | 119 | 52.9 | 26.9 | 47.1 | 21.0 | 38.7 | 29.4 | 20.2 | 1.7 | 26.1 |
| | | 上津役 | 85 | 44.7 | 23.5 | 49.4 | 21.2 | 38.8 | 16.5 | 16.5 | 3.5 | 31.8 |
| | | 香月 | 60 | 53.3 | 26.7 | 48.3 | 26.7 | 45.0 | 26.7 | 26.7 | 1.7 | 26.7 |
| | 戸 畑 区 | 戸畑 | 82 | 52.4 | 24.4 | 41.5 | 13.4 | 47.6 | 25.6 | 14.6 | 2.4 | 30.5 |

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの

問 21 属性別にみた環境活動の「実行層」（「常に実行している」＋「時々実行している」）の割合

| | | サン プル 数 | 取 節 電、 省 エ ネ への 組 み | の だ れ、 打 ち 水 な ど の 署 さ 対 策 | 緑 の カ ー テ ン、 す | 推 進 イ ク ル な ど 3 R の | 清 掃 地 域 で の ま ち 美 化 | 進 マイ バ ッ グ の 持 参 （ ノー レ ジ ン グ の 推 参 | 通 利 用 に よ さ し い 交 イ ブ の 実 施 な ど | 環 境 に よ さ し い エ コ ド ラ | 入 能 コ 商 品 に よ さ し い エ ネ の 購 入 ・ 利 用 | 取 組 み 植 樹 活 動 や 里 山 保 全 な ど 自 然 共 生 の | 産 地 選 ん で 食 べ る 地 元 産 や 旬 の も の | |
|--|--------------|---------------|---|--|----------------------------------|--|--|---|--|---|--|---|--|--|
| 全体 | | 1,400 | 91.8 | 59.8 | 87.4 | 53.8 | 74.3 | 56.8 | 75.0 | 14.2 | 78.5 | | | |
| 性 別 | 男性 | 579 | 90.0 | 53.4 | 84.7 | 52.0 | 65.6 | 57.4 | 72.0 | 17.0 | 71.3 | | | |
| | 女性 | 800 | 94.0 | 64.8 | 90.3 | 55.2 | 81.4 | 56.9 | 78.1 | 12.7 | 84.3 | | | |
| 年 齢 別 | 20歳代 | 104 | 95.2 | 40.4 | 82.7 | 27.0 | 73.1 | 62.5 | 65.4 | 12.5 | 72.1 | | | |
| | 30歳代 | 170 | 92.9 | 43.0 | 87.6 | 41.2 | 70.0 | 57.1 | 78.8 | 11.2 | 75.3 | | | |
| | 40歳代 | 198 | 95.9 | 56.6 | 92.4 | 54.6 | 75.3 | 61.1 | 80.3 | 10.6 | 80.8 | | | |
| | 50歳代 | 246 | 94.7 | 58.6 | 89.8 | 58.9 | 76.4 | 62.2 | 82.6 | 11.8 | 84.5 | | | |
| | 60歳代 | 324 | 94.1 | 73.5 | 92.0 | 62.3 | 78.4 | 59.0 | 79.9 | 16.7 | 83.9 | | | |
| | 70歳以上 | 338 | 85.2 | 64.5 | 81.6 | 56.2 | 72.5 | 47.4 | 64.5 | 18.7 | 72.2 | | | |
| | 居住年数別 | 1年未満 | 14 | 100.0 | 42.9 | 100.0 | 42.8 | 50.0 | 78.6 | 71.4 | 7.1 | 50.0 | | |
| | 2年未満 | 14 | 100.0 | 64.3 | 92.9 | 28.6 | 85.7 | 78.6 | 85.7 | 7.1 | 57.2 | | | |
| | 3年未満 | 12 | 91.7 | 33.3 | 91.6 | 16.7 | 91.6 | 75.0 | 66.7 | 0.0 | 50.0 | | | |
| | 5年未満 | 34 | 91.2 | 26.5 | 94.1 | 35.3 | 79.4 | 61.8 | 70.6 | 14.7 | 67.6 | | | |
| | 10年未満 | 63 | 93.7 | 54.0 | 90.4 | 60.3 | 79.4 | 66.7 | 80.9 | 22.2 | 79.4 | | | |
| | 20年未満 | 100 | 94.0 | 59.0 | 88.0 | 48.0 | 78.0 | 59.0 | 75.0 | 13.0 | 80.0 | | | |
| | 30年未満 | 192 | 94.8 | 51.1 | 84.3 | 45.3 | 72.4 | 55.8 | 72.9 | 13.6 | 81.2 | | | |
| | 30年以上 | 949 | 91.4 | 63.9 | 88.0 | 57.5 | 74.4 | 55.5 | 76.0 | 14.7 | 79.7 | | | |
| 職 業 別 | 自営業 | 109 | 90.0 | 57.8 | 85.3 | 55.0 | 68.8 | 50.4 | 71.6 | 20.2 | 76.1 | | | |
| | 自由業 | 12 | 100.0 | 58.3 | 100.0 | 41.7 | 91.6 | 66.7 | 75.0 | 25.0 | 66.6 | | | |
| | 会社員 | 357 | 94.7 | 48.5 | 87.1 | 46.2 | 67.0 | 60.5 | 78.4 | 11.2 | 76.4 | | | |
| | 公務員・教員 | 51 | 88.2 | 51.0 | 88.2 | 51.0 | 80.4 | 62.7 | 68.6 | 13.7 | 74.5 | | | |
| | 農・林・漁業 | 6 | 100.0 | 66.7 | 100.0 | 100.0 | 83.3 | 50.0 | 83.4 | 33.3 | 100.0 | | | |
| | 主婦・主夫（パートなど） | 177 | 95.5 | 69.4 | 92.6 | 58.1 | 84.2 | 61.6 | 81.9 | 10.7 | 83.1 | | | |
| | 主婦・主夫（専業） | 256 | 94.9 | 69.5 | 92.6 | 59.0 | 83.6 | 61.3 | 82.0 | 16.0 | 90.6 | | | |
| | 学生 | 13 | 100.0 | 38.5 | 84.6 | 30.8 | 76.9 | 84.6 | 61.6 | 23.1 | 69.3 | | | |
| | 無職 | 338 | 87.9 | 64.2 | 84.7 | 56.8 | 72.2 | 49.4 | 68.7 | 17.2 | 72.8 | | | |
| | その他 | 55 | 90.9 | 52.7 | 83.6 | 50.9 | 74.5 | 50.9 | 65.4 | 7.3 | 76.3 | | | |
| 居 住 区 別 | 行 政 区 別 | 門司区 | 182 | 88.5 | 56.6 | 81.3 | 46.7 | 72.0 | 47.8 | 74.1 | 14.8 | 75.8 | | |
| | | 小倉北区 | 237 | 91.5 | 47.7 | 84.4 | 43.4 | 69.7 | 65.9 | 71.8 | 11.0 | 76.0 | | |
| | | 小倉南区 | 277 | 93.1 | 67.9 | 87.7 | 58.5 | 72.9 | 61.0 | 75.8 | 15.6 | 80.1 | | |
| | | 若松区 | 133 | 93.2 | 70.0 | 90.2 | 60.9 | 73.7 | 49.6 | 79.7 | 18.8 | 83.5 | | |
| | | 八幡東区 | 118 | 94.1 | 63.6 | 89.8 | 58.5 | 77.1 | 56.7 | 78.0 | 13.5 | 83.1 | | |
| | | 八幡西区 | 371 | 92.2 | 59.8 | 89.5 | 58.7 | 77.1 | 56.6 | 74.1 | 14.0 | 78.7 | | |
| | | 戸畑区 | 82 | 87.8 | 53.7 | 91.5 | 42.7 | 81.7 | 48.8 | 75.6 | 12.2 | 70.7 | | |
| 居 住 区 別 （ 18 地 区 別 ） | 門 司 区 | 門司港 | 49 | 98.0 | 63.3 | 89.8 | 42.8 | 79.6 | 49.0 | 73.4 | 22.4 | 71.5 | | |
| | | 門司（大里） | 102 | 83.4 | 52.9 | 76.5 | 45.1 | 70.6 | 50.0 | 74.5 | 8.8 | 78.5 | | |
| | | 門司（東部） | 31 | 90.4 | 58.1 | 83.8 | 58.1 | 64.5 | 38.7 | 74.2 | 22.6 | 74.2 | | |
| | 小 倉 北 区 | 小倉 | 44 | 95.4 | 40.9 | 86.4 | 36.3 | 79.5 | 63.6 | 68.2 | 6.8 | 77.3 | | |
| | | 小倉（東部） | 108 | 90.7 | 42.6 | 80.5 | 41.7 | 64.8 | 64.9 | 70.4 | 9.2 | 73.1 | | |
| | | 小倉（西部） | 85 | 90.6 | 57.7 | 88.2 | 49.4 | 70.6 | 68.2 | 75.3 | 15.3 | 78.9 | | |
| | 小 倉 南 区 | 城野 | 61 | 88.5 | 77.1 | 88.6 | 52.4 | 73.7 | 73.8 | 73.8 | 16.4 | 70.5 | | |
| | | 曽根 | 113 | 92.9 | 65.5 | 86.8 | 61.9 | 70.8 | 58.4 | 73.5 | 17.7 | 79.6 | | |
| | | 徳力 | 103 | 96.1 | 65.0 | 88.4 | 58.2 | 74.8 | 56.3 | 79.7 | 12.6 | 86.4 | | |
| | 若 松 区 | 若松 | 66 | 92.4 | 66.7 | 89.4 | 53.0 | 72.7 | 50.0 | 78.8 | 19.7 | 81.8 | | |
| | | 二島 | 67 | 94.0 | 73.1 | 91.1 | 68.7 | 74.6 | 49.3 | 80.6 | 17.9 | 85.0 | | |
| | 八 幡 東 区 | 八幡東（東部） | 56 | 96.4 | 64.3 | 91.1 | 55.3 | 75.0 | 53.6 | 76.7 | 16.1 | 83.9 | | |
| | | 八幡東（西部） | 62 | 91.9 | 62.9 | 88.7 | 61.2 | 79.0 | 59.7 | 79.0 | 11.3 | 82.2 | | |
| | 八 幡 西 区 | 黒崎 | 107 | 90.7 | 58.0 | 83.2 | 49.6 | 77.6 | 56.1 | 68.2 | 10.2 | 78.5 | | |
| | | 折尾 | 119 | 93.2 | 59.7 | 93.3 | 60.5 | 74.8 | 58.8 | 79.0 | 15.1 | 81.6 | | |
| | | 上津役 | 85 | 92.9 | 58.8 | 91.8 | 69.4 | 76.4 | 50.6 | 71.8 | 18.8 | 76.5 | | |
| | | 香月 | 60 | 91.6 | 65.0 | 90.0 | 56.7 | 81.7 | 61.7 | 78.4 | 11.7 | 76.7 | | |
| | 戸 畑 区 | 戸畑 | 82 | 87.8 | 53.7 | 91.5 | 42.7 | 81.7 | 48.8 | 75.6 | 12.2 | 70.7 | | |

（注） **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの

環境保全の取組みについて

【全体的傾向】

環境問題の解決には、環境にやさしい行動を実行することが必要であるが、各項目の環境活動を実行しているかどうかについて、尋ねてみた。

「常に実行している」は、「節電、省エネへの取組み」(49.1%)で最も多く、次いで僅差で「ごみの減量やリサイクルなど3Rの推進」(48.1%)、「マイバッグの持参」(40.9%)と続き、これら3項目で4割を上回った。一方、最も少なかったのは「植樹活動や里山保全など自然共生の取組み」(3.3%)で唯一1割を下回った。また、「地域でのまち美化清掃」(15.9%)、「環境にやさしいエコ商品・省エネ性能の高い製品の購入・利用」(19.4%)も2割を下回り、これら3項目は比較的低かった。

「常に実行している」と「時々実行している」を合わせた「実行層」は、「節電、省エネへの取組み」(91.8%)で最も多く、次いで「ごみの減量やリサイクルなど3Rの推進」(87.4%)、「地元産や旬のものを選んで食べる地産地消」(78.5%)、「環境にやさしいエコ商品・省エネ性能の高い製品の購入・利用」(75.0%)、「マイバッグの持参」(74.3%)と続き、これら5項目で7割を上回った。一方、最も少なかったのは「植樹活動や里山保全など自然共生の取組み」(14.2%)で他の項目は全て5割を上回ったのに対し、唯一2割を下回った。

【属性別にみた傾向】

◇ 性別では、「常に実行している」は全ての項目で女性が男性を上回り、女性の方が高い頻度で環境活動を行っている傾向にあることがうかがえた。特に、「地元産や旬のものを選んで食べる地産池消」(男性19.5%、女性39.5%)、「マイバッグの持参」(男性32.6%、女性47.5%)、「ごみの減量やリサイクルなど3Rの推進」(男性42.0%、女性53.3%)、「緑のカーテン、すだれ、打ち水などの暑さ対策」(男性17.8%、女性28.4%)の4項目では、女性が男性より10ポイント以上の差がみられた。「実行層」でも、「地元産や旬のものを選んで食べる地産池消」(男性71.3%、女性84.3%)、「マイバッグの持参」(男性65.6%、女性81.4%)、「緑のカーテン、すだれ、打ち水などの暑さ対策」(男性53.4%、女性64.8%)の3項目は、女性が男性より10ポイント以上の差がみられた。一方、「環境にやさしい交通利用」(男性57.4%、女性56.9%)、「植樹活動や里山保全など自然共生の取組み」(男性17.0%、女性12.7%)で男性が女性を上回った。

◇ 年齢別では、「常に実行している」は、60歳代と70歳以上の高年齢層で割合が多い項目が目立った。項目としては、「ごみの減量やリサイクルなど3Rの推進」(60歳代56.8%、70歳以上54.1%)、「節電、省エネへの取組み」(60歳代54.9%、70歳以上53.0%)、「マイバッグの持参」(60歳代46.9%、70歳以上43.8%)、「地元産や旬のものを選んで食べる地産池消」(60歳代36.4%、70歳以上35.2%)、「緑のカーテン、すだれ、打ち水などの暑さ対策」(60歳代31.2%、70歳以上29.3%)の5項目は60歳代で最も多く、70歳代で2番目に多かった。「地域でのまち美化清掃」(60歳代21.6%、70歳以上23.7%)では70歳以上が最も多く、60歳代と70歳以上で2割を上回った。一方、「環境にやさしい交通利用」は、20歳代(30.8%)が唯一3割を上回った。「実行層」は、高年齢層で割合が多い項目としては、「緑のカーテン、すだれ、打ち水などの暑さ対策」(60歳代73.5%、70歳以上64.5%)が挙げられるが、「地域でのまち美化清掃」(60歳代62.3%、50歳代58.9%)、「地元産や旬のものを選んで食べる地産池消」(50歳代84.5%、60歳代83.9%)など、50歳代と60歳代を中心に割合が多い項目も見られ

た。「環境にやさしい交通利用」は、20歳代（62.5%）、50歳代（62.2%）で比較的多く、「環境にやさしいエコ商品・省エネ性能の高い製品の購入・利用」は50歳代（82.6%）、40歳代（80.3%）で比較的多く見られた。なお、「節電、省エネへの取組み」は、40歳代（95.9%）で最も多く、最も少ない70歳以上（85.2%）のみ9割を下回った。「ごみの減量やリサイクルなど3Rの推進」は40歳代（92.4%）で最も多いが、最も少ない70歳以上（81.6%）でも8割を上回った。これら2項目は全ての年齢層で割合が多く、年齢を問わず活動意識が高いことがうかがえた。

- ◇ 居住年数別では、「常に実行している」は2年未満、20年未満、30年以上で比較的高い割合の項目が多かった。「節電、省エネへの取組み」は2年未満（64.3%）の多さが目立った。「マイバッグの持参」は2年未満（57.1%）、20年未満（49.0%）の順で多く、「環境にやさしい交通利用」も、同じく2年未満（42.9%）と20年未満（33.0%）が上位2位を占めた。「緑のカーテン、すだれ、打ち水などの暑さ対策」は30年以上（26.3%）で最も多く、30年以上は他にも「地域でのまち美化清掃」（17.9%）と「地元産や旬のものを選んで食べる地産池消」（33.3%）で最も多かった。また、「環境にやさしいエコ商品・省エネ性能の高い製品の購入・利用」は3年未満（25.0%）が最も多かった。「実行層」は、「節電、省エネへの取組み」は1年未満及び2年未満（100.0%）で最も多かったが、最も少ない5年未満（91.2%）でも9割を上回った。「ごみの減量やリサイクルなど3Rの推進」についても、最も少ない30年未満（84.3%）で8割を上回り、これら2項目は居住年数を問わず活動意識が高かった。「マイバッグの持参」は3年未満（91.6%）や2年未満（85.7%）で多く、「環境にやさしい交通利用」は1年未満及び2年未満（78.6%）、3年未満（75.0%）で7割を上回り、居住年数が短い層を中心に割合が多かった。
- ◇ 職業別では、「常に実行している」は学生の多さが目立ち、特に「環境にやさしい交通利用」（61.5%）と「植林活動や里山保全など自然共生の取組み」（23.1%）は2位以下と10ポイント以上の差をつけて多く、他に「マイバッグの持参」（53.8%）、「環境にやさしいエコ商品・省エネ性能の高い製品の購入・利用」（30.8%）、「地域でのまち美化清掃」（23.1%）の以上5項目で、最も多かった。「ごみの減量やリサイクルなど3Rの推進」は主婦・主夫（パートなど）（57.6%）や主婦・主夫（専業）（55.5%）、無職（53.6%）で多く、これらの職業層は5割を上回った。「緑のカーテン、すだれ、打ち水などの暑さ対策」は主婦・主夫（専業）（33.6%）と自由業（33.3%）で多く、「節電、省エネへの取組み」も自由業（58.3%）と主婦・主夫（専業）（57.0%）で多く見られた。「地元産や旬のものを選んで食べる地産池消」は主婦・主夫（専業）（44.1%）で最も多く、4割を上回った。上記のように、学生に加え、主婦・主夫（専業）や自由業で上位に入る項目が比較的多かった。「実行層」は、「節電、省エネへの取組み」で自由業及び学生が100.0%で最も多く、無職（87.9%）と公務員・教員（88.2%）は9割を下回り、年齢別や居住年数別に比べると若干ばらつきが見られた。「ごみの減量やリサイクルなど3Rの推進」は、自由業（100.0%）、主婦・主夫（パートなど）及び主婦・主夫（専業）（ともに92.6%）で多く見られた。「地元産や旬のものを選んで食べる地産池消」は主婦・主夫（専業）（90.6%）で最も多く、9割を上回った。「環境にやさしいエコ商品・省エネ性能の高い製品の購入・利用」は、主婦・主夫（専業）（82.0%）、主婦・主夫（パートなど）（81.9%）で8割を上回り、「マイバッグの持参」は自由業（91.6%）で唯一9割を上回るなど、自由業、主婦・主夫（パートなど）、主婦・主夫（専業）が上位に入る項目が多く見られた。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「常に実行している」は、若松区では「節電、省エネへの取組み」（54.1%）、「地元産や旬のものを選んで食べる地産池消」（42.9%）、「環境にやさしいエコ商品・

省エネ性能の高い製品の購入・利用」(23.3%)、「植樹活動や里山保全など自然共生の取組み」(7.5%)の4項目で最も多かった。八幡東区は「ごみの減量やリサイクルなど3Rの推進」(50.8%)と「緑のカーテン、すだれ、打ち水などの暑さ対策」(28.0%)の2項目で最も多かった。「環境にやさしい交通利用」は小倉北区(32.1%)で最も多く、唯一3割を上回った。「実行層」は、「節電、省エネへの取組み」で八幡東区(94.1%)が最も多く、戸畑区(87.8%)が最も少なかったが、その差は6.3ポイントと、大きな差は見られなかった。他に目立ったところでは、「緑のカーテン、すだれ、打ち水などの暑さ対策」は若松区(70.0%)で7割以上を占め、「地域でのまち美化清掃」でも若松区(60.9%)は唯一6割を上回った。「マイバツクの持参」は、戸畑区(81.7%)で唯一8割を上回った。

行政区を18地区に細分化して見ると、「常に実行している」は、「節電、省エネへの取組み」は八幡東(東部)地区(58.9%)や二島地区(56.7%)で多く見られ、最も少なかった小倉地区(38.6%)は唯一4割を下回った。「ごみの減量やリサイクルなど3Rの推進」は、門司(東部)地区(54.8%)で最も多く、「マイバツクの持参(ノーレジ袋推進)」では、八幡東(西部)地区(48.4%)、黒崎地区(47.7%)、戸畑地区(47.6%)で多く見られた。「地元産や旬のものを選んで食べる地産池消」は二島地区(53.7%)が最も多く、唯一5割を上回り、「地域でのまち美化清掃」も二島地区(26.9%)で最も多かった。また、「環境にやさしい交通利用」は、小倉(東部)地区(34.3%)と小倉(西部)地区(34.1%)のみ3割を上回り、小倉北区を中心に多く見られた。「実行層」は、「節電、省エネへの取組み」で門司港地区(98.0%)が最も多く、門司(大里)地区(83.4%)で最も少なく、同じ門司区内で傾向が分かれた。他に目立ったところでは、「緑のカーテン、すだれ、打ち水などの暑さ対策」は、城野地区(77.1%)、二島地区(73.1%)、若松地区(66.7%)、曾根地区(65.5%)、徳力地区及び香月地区(65.0%)で多く、小倉南区及び若松区は区内全体で比較的割合が高かった。「環境にやさしい交通利用」は城野地区(73.8%)で最も多かったが、次いで、小倉(西部)地区(68.2%)、小倉(東部)地区(64.9%)、小倉地区(63.6%)と続き、小倉北区の区内全体で比較的割合が多かった。

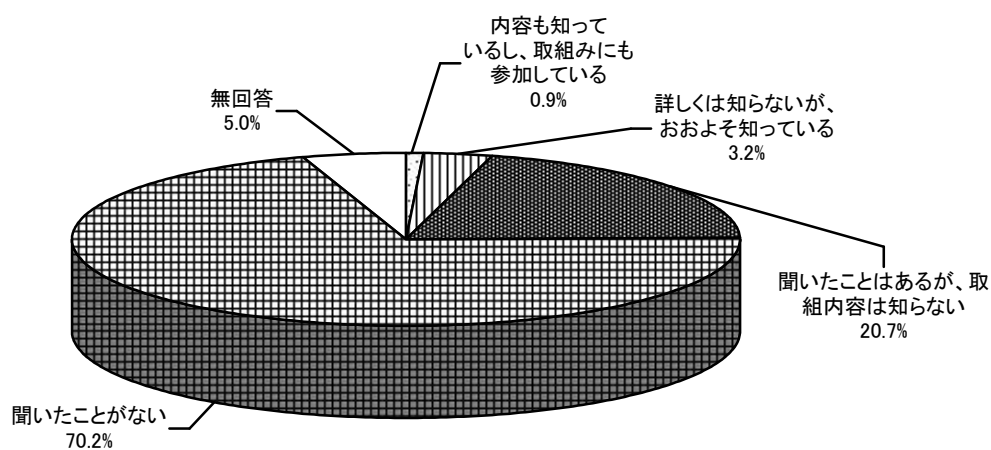
(21) ESDの取組みについて

問 22 あなたは、ESDという言葉や取組内容を知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

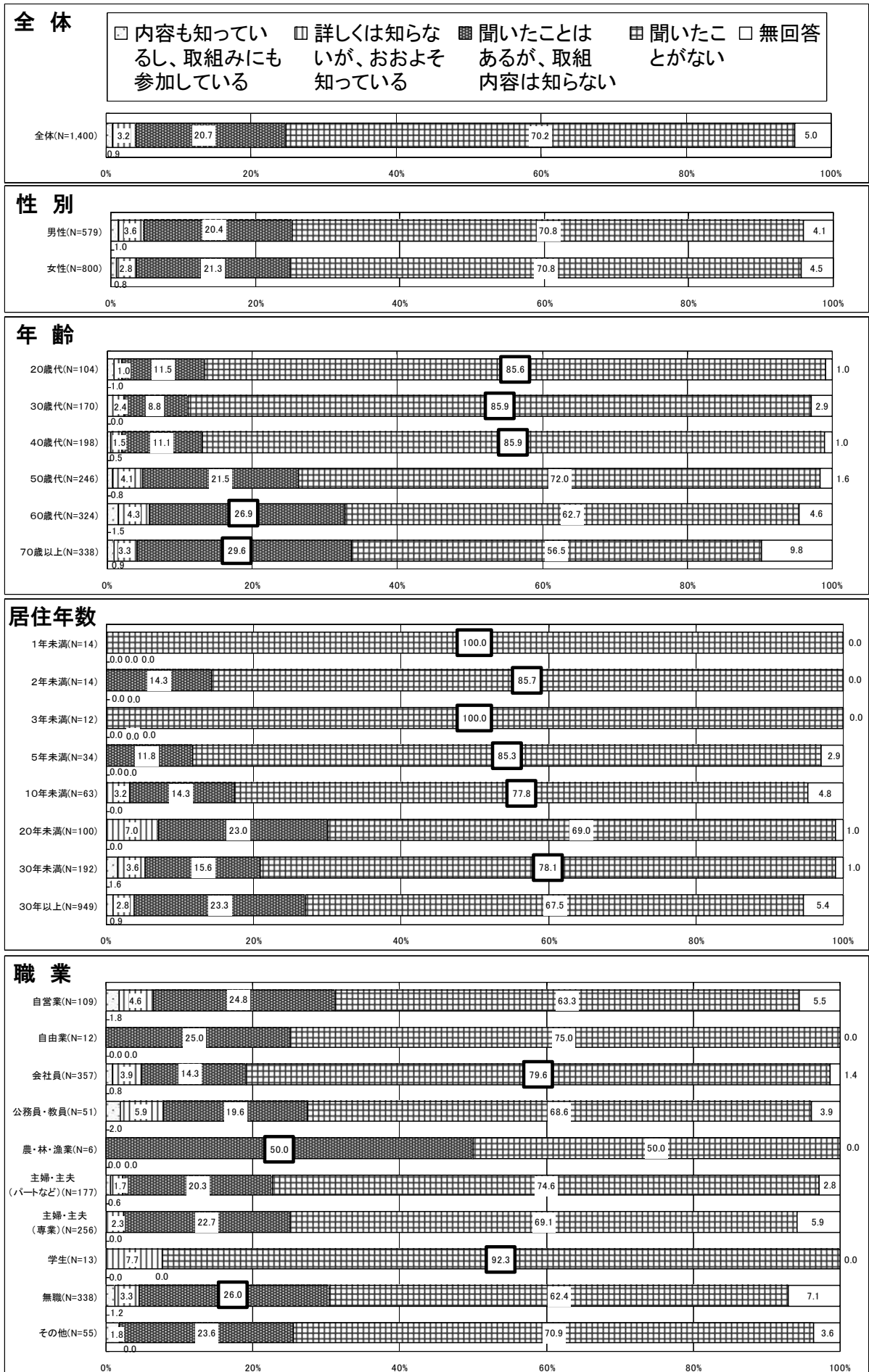
N : 1,400 人

| 項目 | 回答数 (人) | 割合 (%) |
|-------------------------|---------|--------|
| 1 内容も知っているし、取組みにも参加している | 12 | 0.9 |
| 2 詳しくは知らないが、おおよそ知っている | 45 | 3.2 |
| 3 聞いたことはあるが、取組内容は知らない | 290 | 20.7 |
| 4 聞いたことがない | 983 | 70.2 |
| 無回答 | 70 | 5.0 |

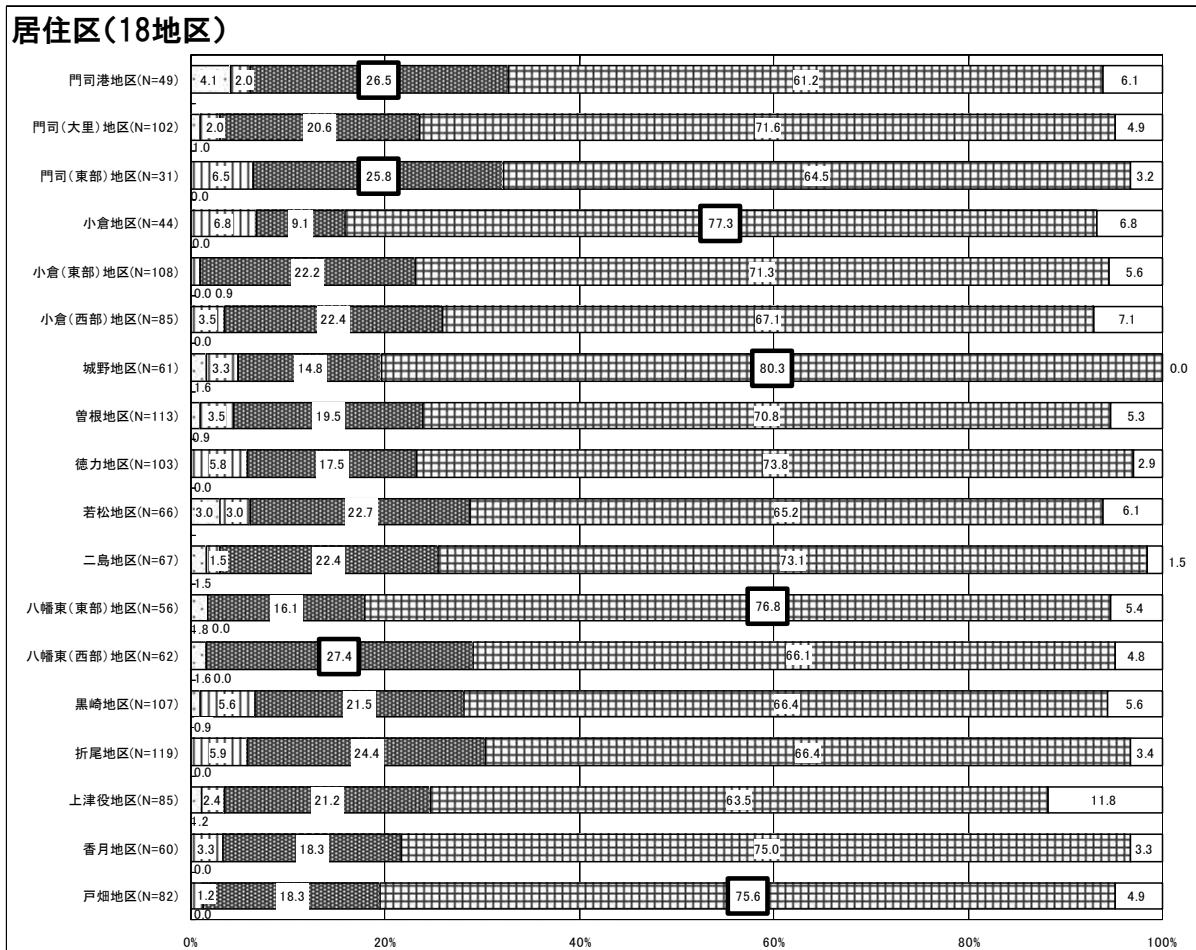
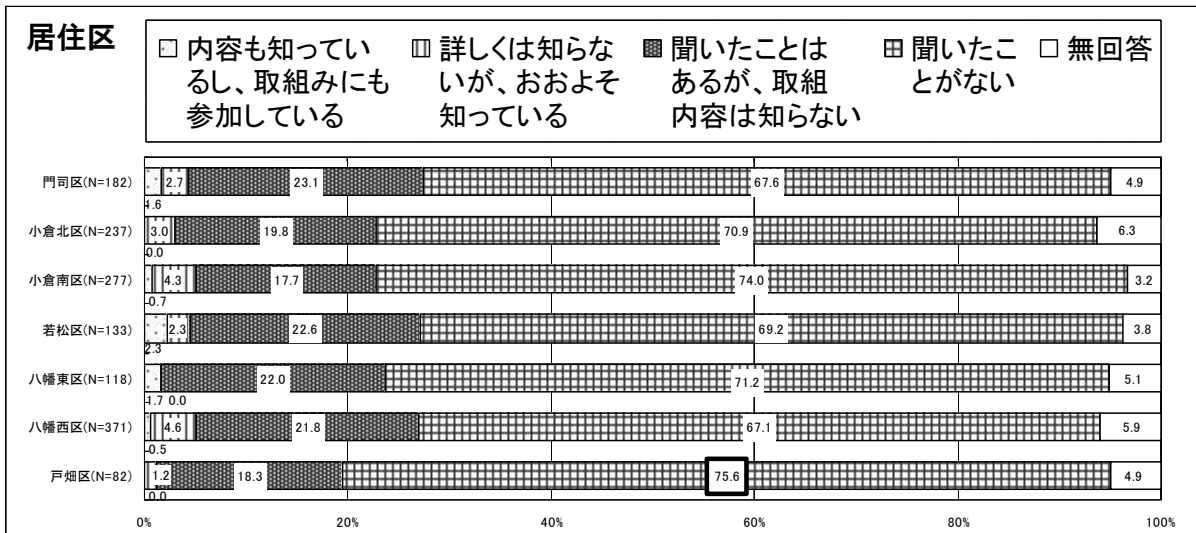
- ◇ 「聞いたことがない」を除いた「認知層」は24.8%と、およそ4人に1人。
- ◇ 「内容も知っているし、取組みにも参加している」と「詳しくは知らないが、おおよそ知っている」を合わせた「高認知層」は4.1%。



問 22 ESDの取組みについて



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

ESDの取組みについて

【全体的傾向】

「持続発展教育」を意味するESDに関する活動として、市では「北九州ESD協議会」を中心に勉強会やワークショップ等を行い、市民への普及活動を展開しているが、このESDという言葉や取組内容について、知っているかどうかを尋ねてみた。

最も多かったのが、「無認知層」である「聞いたことがない」で70.2%となった。次いで、「聞

いたことはあるが、取組内容は知らない」(20.7%)、「詳しくは知らないが、おおよそ知っている」(3.2%)、「内容も知っているし、取組みにも参加している」(0.9%)と続き、これらを合わせた「認知層」は24.8%と、およそ4人に1人の割合となった。また、「内容も知っているし、取組みにも参加している」と「詳しくは知らないが、おおよそ知っている」を合わせた回答者を「高認知層」とすると、この割合は4.1%にとどまった。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男女とも「聞いたことがない」(男性70.8%、女性70.8%)の割合が最も多く、かつ同率で差は見られなかった。「認知層」(男性25.0%、女性24.9%)も、ほとんど差は見られなかった。「高認知層」は、男性(4.6%)が女性(3.6%)をわずかに上回った。
- ◇ 年齢別では、「聞いたことがない」は30歳代及び40歳代(ともに85.9%)が最も多く、次いで20歳代(85.6%)と、若年層を中心に8割を上回り、70歳以上(56.5%)で最も少なくなっており、50歳以降は年齢層が高くなるにつれ、割合が低くなる傾向にあった。「認知層」も70歳以上(33.8%)が最も多く、次いで60歳代(32.7%)、50歳代(26.4%)と続き、最も少ない30歳代は11.2%と、20歳代から40歳代は2割を下回った。「高認知層」は60歳代(5.8%)が最も多く、唯一5%を上回った。
- ◇ 居住年数別では、「認知層」は20年未満(30.0%)で最も多く、次いで30年以上(27.0%)、30年未満(20.8%)と続き、これらの層では2割を上回り、居住年数が長い層で比較的割合が多かった。「内容も知っているし、取組みにも参加している」は、30年未満(1.6%)と30年以上(0.9%)以外の層では、0.0%となった。また、「聞いたことがない」では、1年未満と3年未満で100.0%、2年未満(85.7%)、5年未満(85.3%)も8割を上回り、居住年数が短い層で割合が多かった。
- ◇ 職業別では、「認知層」は自営業(31.2%)で最も多く、次いで無職(30.5%)、公務員・教員(27.5%)と続き、最も少ない学生(7.7%)、会社員(19.0%)以外の職業層では2割を上回った。しかし、「高認知層」は最も多い公務員・教員(7.9%)に次いで学生(7.7%)、自営業(6.4%)と続いた。「内容も知っているし、取組みにも参加している」は、公務員・教員(2.0%)で最も多かった。一方、「聞いたことがない」は、学生(92.3%)が最も多く、次いで会社員(79.6%)、自由業(75.0%)と続いた。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「認知層」は門司区(27.4%)で最も多く、最も少ない戸畑区(19.5%)を除いた全区で2割を上回った。「高認知層」は、八幡西区(5.1%)で最も多く、次いで小倉南区(5.0%)と続いた。「内容も知っているし、取組みにも参加している」は若松区(2.3%)で最も多く、小倉北区及び戸畑区では0.0%であった。「聞いたことがない」は、戸畑区(75.6%)が最も多く、次いで小倉南区(74.0%)、八幡東区(71.2%)と続いた。
行政区を18地区に細分化して見ると、「認知層」は門司港地区(32.6%)で最も多く、次いで門司(東部)地区(32.3%)、折尾地区(30.3%)と続き、これら3地区で3割を上回った。最も少ないのは小倉地区(15.9%)であった。しかし、「高認知層」は、小倉地区(6.8%)が最も多く、次いで門司(東部)地区及び黒崎地区(6.5%)と続いた。「内容も知っているし、取組みにも参加している」でも門司港地区(4.1%)が最も多かった。一方、「聞いたことがない」は、城野地区(80.3%)で最も多く、唯一8割を超え、次いで、小倉地区(77.3%)、八幡東(東部)地区(76.8%)、戸畑地区(75.6%)と続いた。

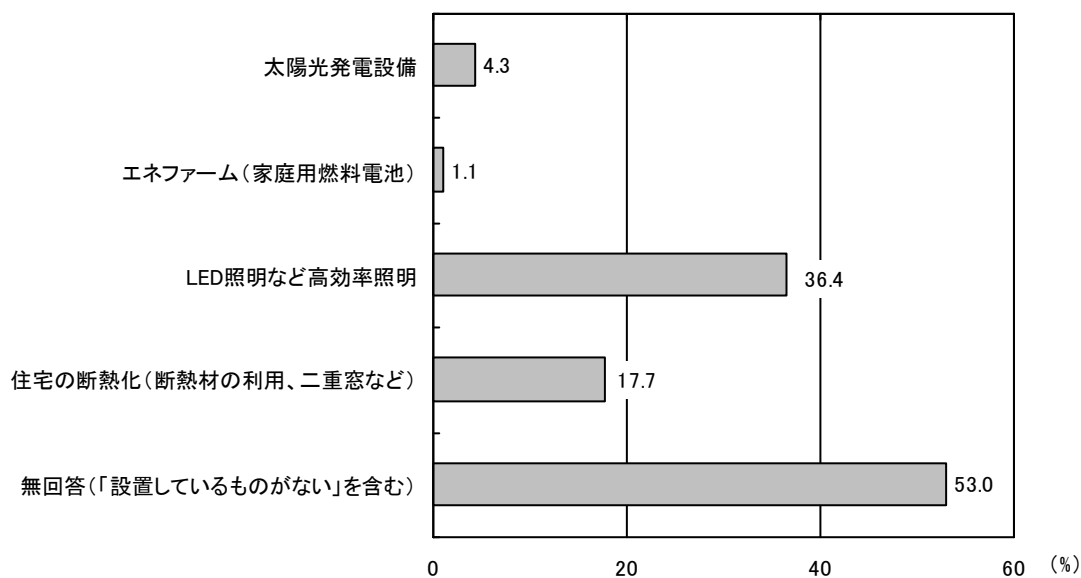
(22) 家庭における地球温暖化対策への取組みについて

問 23 北九州市では、地球温暖化対策を進めるため、家庭における太陽光発電やエネファーム（家庭用燃料電池）の設置に対し、費用の一部を補助する事業の実施を予定しています。そこで、あなたのご家庭の設備についておたずねします。次の項目（A～D）の設備について、現在、あなたのご家庭で、設置しているものはありますか。設置しているものに、いくつでも○を付けてください。

N : 1,400 人

| 項目 | 回答数（人） | 割合（%） |
|------------------------|--------|-------|
| A 太陽光発電設備 | 60 | 4.3 |
| B エネファーム（家庭用燃料電池） | 15 | 1.1 |
| C LED照明など高効率照明 | 509 | 36.4 |
| D 住宅の断熱化（断熱材の利用、二重窓など） | 248 | 17.7 |
| 無回答（「設置しているものがない」を含む） | 742 | 53.0 |

◇ 地球温暖化対策のために家庭で設置している設備としては、「LED照明など高効率照明」（36.4%）が最も多く、およそ3人に1人の割合。



問 23 家庭における地球温暖化対策への取組みについて

| | | サンプル数 | 太陽光発電設備 | エネファーム (家庭用燃料電池) | 高効率照明 LED照明など | 住宅の断熱材の 利用、二重窓など | 無回答(「設置して いるものがない」を 含む) | |
|--------|--------------|-------------|-------------|---------------------|------------------|---------------------|-------------------------------|------|
| 全体 | | 1,400 | 4.3 | 1.1 | 36.4 | 17.7 | 53.0 | |
| 性別 | 男性 | 579 | 4.8 | 0.9 | 35.6 | 19.0 | 52.5 | |
| | 女性 | 800 | 4.0 | 1.3 | 37.9 | 17.3 | 52.1 | |
| 年齢別 | 20歳代 | 104 | 1.9 | 1.0 | 33.7 | 8.7 | 59.6 | |
| | 30歳代 | 170 | 10.0 | 1.8 | 37.1 | 18.8 | 50.0 | |
| | 40歳代 | 198 | 3.0 | 0.5 | 35.9 | 20.7 | 52.0 | |
| | 50歳代 | 246 | 4.9 | 1.2 | 41.9 | 21.1 | 45.1 | |
| | 60歳代 | 324 | 4.0 | 1.2 | 41.7 | 18.5 | 50.0 | |
| | 70歳以上 | 338 | 3.0 | 0.9 | 30.2 | 16.0 | 58.9 | |
| | 居住年数別 | 1年未満 | 14 | 0.0 | 0.0 | 50.0 | 21.4 | 35.7 |
| 2年未満 | | 14 | 0.0 | 0.0 | 28.6 | 14.3 | 57.1 | |
| 3年未満 | | 12 | 0.0 | 0.0 | 25.0 | 0.0 | 75.0 | |
| 5年未満 | | 34 | 5.9 | 2.9 | 35.3 | 23.5 | 52.9 | |
| 10年未満 | | 63 | 3.2 | 1.6 | 41.3 | 22.2 | 50.8 | |
| 20年未満 | | 100 | 4.0 | 1.0 | 42.0 | 20.0 | 45.0 | |
| 30年未満 | | 192 | 4.7 | 1.6 | 35.4 | 10.4 | 55.7 | |
| 30年以上 | | 949 | 4.5 | 0.9 | 36.6 | 19.0 | 52.4 | |
| 職業別 | 自営業 | 109 | 0.9 | 2.8 | 39.4 | 21.1 | 48.6 | |
| | 自由業 | 12 | 0.0 | 0.0 | 16.7 | 50.0 | 41.7 | |
| | 会社員 | 357 | 5.9 | 0.8 | 36.7 | 18.2 | 51.8 | |
| | 公務員・教員 | 51 | 9.8 | 0.0 | 35.3 | 23.5 | 52.9 | |
| | 農・林・漁業 | 6 | 0.0 | 0.0 | 33.3 | 16.7 | 66.7 | |
| | 主婦・主夫(パートなど) | 177 | 7.9 | 1.1 | 44.6 | 16.9 | 45.8 | |
| | 主婦・主夫(専業) | 256 | 2.0 | 1.2 | 39.8 | 19.5 | 50.0 | |
| | 学生 | 13 | 0.0 | 0.0 | 46.2 | 15.4 | 38.5 | |
| | 無職 | 338 | 3.3 | 0.9 | 31.1 | 13.3 | 60.1 | |
| | その他 | 55 | 5.5 | 1.8 | 34.5 | 23.6 | 50.9 | |
| 居住区別 | 行政区別 | 門司区 | 182 | 3.8 | 1.6 | 35.7 | 17.0 | 54.9 |
| | | 小倉北区 | 237 | 0.4 | 0.4 | 35.0 | 13.1 | 57.8 |
| | | 小倉南区 | 277 | 6.5 | 1.1 | 37.2 | 20.6 | 49.5 |
| | | 若松区 | 133 | 5.3 | 1.5 | 35.3 | 24.1 | 52.6 |
| | | 八幡東区 | 118 | 5.9 | 0.8 | 39.0 | 13.6 | 54.2 |
| | | 八幡西区 | 371 | 4.3 | 1.3 | 37.5 | 19.9 | 49.6 |
| | | 戸畑区 | 82 | 4.9 | 0.0 | 31.7 | 8.5 | 61.0 |
| | | 居住区別(18地区別) | 門司区 | 門司港 | 49 | 6.1 | 4.1 | 36.7 |
| 門司(大里) | 102 | | | 2.9 | 0.0 | 37.3 | 11.8 | 57.8 |
| 門司(東部) | 31 | | | 3.2 | 3.2 | 29.0 | 29.0 | 48.4 |
| 小倉北区 | 小倉 | | 44 | 0.0 | 0.0 | 34.1 | 13.6 | 59.1 |
| | 小倉(東部) | | 108 | 0.0 | 0.9 | 35.2 | 9.3 | 59.3 |
| | 小倉(西部) | | 85 | 1.2 | 0.0 | 35.3 | 17.6 | 55.3 |
| 小倉南区 | 城野 | | 61 | 8.2 | 0.0 | 36.1 | 16.4 | 54.1 |
| | 曾根 | | 113 | 7.1 | 1.8 | 35.4 | 22.1 | 51.3 |
| | 徳力 | | 103 | 4.9 | 1.0 | 39.8 | 21.4 | 44.7 |
| 若松区 | 若松 | | 66 | 1.5 | 1.5 | 31.8 | 15.2 | 62.1 |
| | 二島 | | 67 | 9.0 | 1.5 | 38.8 | 32.8 | 43.3 |
| 八幡東区 | 八幡東(東部) | | 56 | 1.8 | 0.0 | 33.9 | 12.5 | 57.1 |
| | 八幡東(西部) | | 62 | 9.7 | 1.6 | 43.5 | 14.5 | 51.6 |
| 八幡西区 | 黒崎 | | 107 | 3.7 | 0.9 | 36.4 | 12.1 | 55.1 |
| | 折尾 | | 119 | 1.7 | 0.8 | 41.2 | 16.8 | 48.7 |
| | 上津役 | | 85 | 8.2 | 2.4 | 34.1 | 29.4 | 45.9 |
| | 香月 | | 60 | 5.0 | 1.7 | 36.7 | 26.7 | 46.7 |
| 戸畑区 | 戸畑 | | 82 | 4.9 | 0.0 | 31.7 | 8.5 | 61.0 |

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

家庭における地球温暖化対策への取組みについて

【全体的傾向】

この設問では、地球温暖化対策として家庭に設置している設備を尋ねてみた。

設備の中で最も多かったのは「LED照明など高効率照明」で36.4%となり、およそ3人に1人の割合で設置されていた。次いで、「住宅の断熱化（断熱材の利用、二重窓など）」（17.7%）、「太陽光発電設備」（4.3%）、「エネファーム（家庭用燃料電池）」（1.1%）と続いた。なお、「無回答（設置しているものがない）」を含むは53.0%で、5割を上回った。

【属性別にみた傾向】

◇ 性別では、「LED照明など高効率照明」では女性（37.9%）が男性（35.6%）を上回り、「住宅の断熱化（断熱材の利用、二重窓など）」では男性（19.0%）が女性（17.3%）を上回った。「太陽光発電設備」（男性4.8%、女性4.0%）、及び「エネファーム」（男性0.9%、女性1.3%）は、男女ほぼ同率であった。

◇ 年齢別では、「LED照明など高効率照明」は50歳代（41.9%）と60歳代（41.7%）で多く見られ、他の年齢層はいずれも3割台となった。「住宅の断熱化（断熱材の利用、二重窓など）」でも50歳代（21.1%）が最も多く、次に40歳代（20.7%）が続き、これらの層で2割を上回った。「太陽光発電設備」は30歳代（10.0%）の割合が多く、唯一1割を占めた。

◇ 居住年数別では、「LED照明など高効率照明」は1年未満（50.0%）で最も多く、次いで20年未満（42.0%）と10年未満（41.3%）で4割を上回った。「住宅の断熱化（断熱材の利用、二重窓など）」は5年未満（23.5%）が最も多く、10年未満（22.2%）、1年未満（21.4%）、20年未満（20.0%）と続き、これら4つの層で2割を上回った。「太陽光発電設備」と「エネファーム（家庭用燃料電池）」は、1年未満から3年未満の各層でいずれも0.0%であった。

◇ 職業別では、「LED照明など高効率照明」は学生（46.2%）で最も多く、次いで主婦・主夫（パートなど）（44.6%）が続いた。「住宅の断熱化（断熱材の利用、二重窓など）」は自由業（50.0%）が最も多く、次いで、その他（23.6%）、公務員・教員（23.5%）と続き、自由業が突出して多かった。「太陽光発電設備」は公務員・教員（9.8%）が最も多かった。

◇ 居住区を行政区別に見ると、「LED照明など高効率照明」は八幡東区（39.0%）が最も多く、戸畑区（31.7%）で最も少なかったが、全ての区で3割を上回った。「住宅の断熱化（断熱材の利用、二重窓など）」は若松区（24.1%）と小倉南区（20.6%）で2割を上回った。一方、最も少なかった戸畑区（8.5%）のみ1割を下回った。

行政区を18地区に細分化して見ると、「LED照明など高効率照明」は八幡東（西部）地区（43.5%）と折尾地区（41.2%）の2地区で4割を上回った。「住宅の断熱化（断熱材の利用、二重窓など）」は二島地区（32.8%）で唯一3割を上回り、次いで上津役地区（29.4%）、門司（東部）地区（29.0%）、香月地区（26.7%）と続いた。一方、戸畑地区（8.5%）と小倉（東部）地区（9.3%）では1割を下回った。「太陽光発電設備」は八幡東（西部）地区（9.7%）や二島地区（9.0%）で比較的多かった。

3 まとめ

本調査報告書の冒頭部分「調査の目的」で触れているが、市では幅広い分野の仕事を行っており、仕事を行う際には常に見直しに努め、より良い方法を考えているが、関係者の方々や市の職員の意見等だけでは、状況の把握が難しい分野も存在している。

そこで、平成 24 年度の市民意識調査では「仕事の見直しのための状況調査」をテーマとして、様々な分野に関して、幅広く市民の意見を求めた。

調査結果の具体的な内容、詳細についてはすでに指摘したとおりであるが、最後にここで調査結果の簡単な要約を行い本調査の報告を終わることとする。

1. 信頼のきずなによる安全で安心できるまちづくり

- 消費生活センターは、市民が安心して消費活動を行えるよう、消費者保護を目的として設置された都道府県・市町村（特別区を含む）の行政機関である。その業務内容がどれくらい市民に知られているか尋ねたところ、消費生活に関する苦情や多重債務問題に関する相談受付、及び弁護士や司法書士による法律無料相談が実施されていることをどちらか一方でも知っている市民が 6 割弱（58.0%）と多数を占めた。この 1 年間で消費者トラブル（詐欺などの悪質商法や契約上のトラブルといった消費者問題、及び多重債務問題）を経験した市民は 5.2%であった。なお、経験した市民の内訳は、「あったが解決した」が 3.6%、「あったが満足した解決に至らなかった」が 1.6%と、トラブルを抱えても解決した割合のほうが多かった。解決した市民の相談先は「消費生活センター」（42.0%）が最も多く、今後、もしも消費者トラブルを抱えた場合の相談先にも「消費生活センター」（81.4%）が最も多く挙げられており、消費活動に関する相談機関として市民の間で広く認知されていることがうかがえる。
- 地域における安全（治安）については、「肯定派」が 64.5%、「否定派」が 34.8%と、3 人のうち 2 人が肯定、残る 1 人が否定という割合を示した。「否定派」は、年齢別では 20 歳代で 5 割を上回り、居住年数別では 2 年未満、3 年未満、及び 10 年未満の層で 5 割を上回るなど、若年層や居住年数が比較的短い層で、不安感が強い傾向が見られる。居住区別では、「否定派」が小倉北区（51.9%）で 5 割を上回り、中でも小倉（東部）地区（63.9%）で多く見られている。暴力追放対策の進捗については、「肯定派」（44.7%）と「否定派」（45.2%）に見解が二分しており、居住区別では、「肯定派」は八幡東区（52.5%）で最も多く、唯一 5 割を上回った。一方、「否定派」は戸畑区（51.2%）と若松区（51.1%）で多く、5 割を上回った。18 地区別では、「肯定派」は八幡東（西部）地区（58.0%）で最も多く、「否定派」は小倉（東部）地区（56.4%）や香月地区（55.0%）で多く見られた。

2. すべての市民が人権を尊重され自分らしく暮らせるまちづくり

- “すべての市民が人権を尊重され自分らしく暮らせるまちづくり”を支えるものとして、市では平和の尊さを次世代へ伝える様々な取組みを行っているが、その充実度については、「肯定派」が 35.5%、「どちらともいえない」が 33.6%、否定意見である「そう感じていない」が 19.1%、「分からない」が 11.5%と、3 割以上の市民がその取組

みを認めているが、まだ取組みに余地を残すと感じる市民が多数であるとの結果になった。

- 外国人にとっても日本人にとっても暮らしやすい社会を示す言葉である“多文化共生”という言葉については、「認知層」(57.7%)が「無認知層」(41.9%)と上回った。

3. 快適に暮らせる身近な生活空間づくり

- 市では海辺を市民の憩いや学び、及び遊びの舞台として快適で魅力ある場となるよう取組みを行っているが、市の海辺や港が市民にとって快適で魅力ある場であるかを尋ねたところ、「満足派」が35.6%、「どちらともいえない」が33.4%であった。「不満派」は14.8%に止まっており、まだ改善や推進の余地はあるが、市民からの大きな不満はない状況であることがうかがえる。なお、「行ったことがない」が15.1%となっており、この層が行ってみたいくなる海辺や港を模索することも、市民満足の向上に繋がると考えられる。

4. 生活に根つき、誇れる文化・スポーツの振興

- まず、文化に関する項目として、市民がこの1年間、市内に外出して鑑賞した芸術・文化は、「祭り・地域の伝統行事など」(51.1%)が5割を上回り、「史跡や歴史的建造物」(43.4%)、「映画・漫画・アニメーション」(42.2%)、「美術」(30.2%)と続き、これらが上位を占めた。“わっしょい百万夏まつり”や市内各地の祇園など、祭りが盛んな本市の特長がうかがえる結果となった。なお、芸術・文化を鑑賞した場所としては、「映画館」(50.3%)が最も多く、「美術館」(30.6%)、「市民センター」(24.1%)、「北九州芸術劇場」(23.4%)が上位を占めた。
- 次に、スポーツに関する項目として、市民のスポーツや運動の実施状況は、「していない」(35.1%)市民が最も多く、約3人に1人との結果になった。次いで「週に3日以上している」(20.5%)市民も約2割と、市民の中で傾向が分かれた。これは、高年齢層で「していない」(60歳代36.1%、70歳以上41.1%)と「週に3日以上」(60歳代26.2%、70歳以上26.3%)で回答を二分していることが大きく影響していると考えられる。
- この1年間のうち、競技場などに出かけてスポーツ観戦をした回数は、行かなかった(76.5%)市民が最も多く、およそ4人に3人との結果になった。
- 次に、市内にある多数の公共スポーツ施設について、市民がこの1年間でどれくらい利用したかについては、「していない」(78.4%)が8割弱で最も多かった。「利用層」は18.4%で、「週に3日以上」「週に1～2日」「月に1～3日」を合わせた「高利用層」は7.4%と少数派であった。利用者における公共スポーツ施設の満足度は、「満足層」が52.7%と、5割を上回る市民から評価を得ていたが、「不満層」(19.8%)が約2割と、およそ5人に1人いた。「不満層」からはその理由として、駐車場の不足や、施設そのものへの不満(老朽化・汚い・数が少ない・充実していない・狭い)などが挙げられた。なお、公共スポーツ施設を利用しなかった人の理由としては、「運動をしなかった」(54.7%)が最も多く、これらの層の参加を促す取組みが、市民全体におけるスポーツ促進のひとつに繋がると考えられる。

5. 活発な市民活動を促進する環境づくり

- 地域の行事や地域活動への参加頻度は、「参加していない」(58.1%)が最も多かった、「参加層」は40.5%で、「月に4回以上」と「月に1～3回」を合わせた「高頻度層」(10.1%)は約1割であった。しかし、「参加していない」と回答した市民に、機会があれば参加したいと思うか尋ねたところ、「機会があれば参加したいと思う」(60.1%)が約6割を占めていた。なお、居住年数別では、「機会があれば参加したいと思う」は居住年数別では1年未満(64.3%)や2年未満(81.8%)で多く見られ、居住年数が短い層に対して参加の機会をどう設けるかが、促進に向けた取組みとして有効であると推察される。
- 住民主体の地域づくりを進めていくための基本ルールとなる“北九州市自治基本条例”について、約7割が「知らない」(69.9%)と回答しており、「認知層」(28.0%)は3割弱、「高認知層」(8.6%)は1割弱と、認知度の低さがうかがえる結果となった。なお、「認知層」「高認知層」ともに高年齢層で割合が多かったことから、若年および中年層中心に周知を図る必要があると感じられる結果となった。

6. にぎわいづくりの推進

- 市のにぎわいづくりを促進するためには、市民が市に対して肯定的な見解をもっていることが必要不可欠である。その一つとして、まず市への好感度を尋ねたところ、積極的肯定意見である「好き」(43.0%)が4割強、「肯定派」(79.5%)が約8割であった。次いで、市への愛着度として定住意向を尋ねたところ、積極的肯定意見の「そう思う」(49.5%)が約5割、「肯定派」(78.1%)が約8割であった。市に誇りや自信を感じるか尋ねたところ、「概ね感じる」(37.2%)が最も多く、「肯定派」(51.7%)は5割強と好感度や愛着度には及ばないが、総合的に見て、市に対して肯定的な見解を持っている市民が多数との結果になった。
- 市外からの来訪者に対して、北九州市の魅力をいくつ伝えることができるかについては、「1個～2個」(39.6%)が最も多かった。「可能層」(83.1%)は8割強にのぼり、「思いつかない」(13.3%)は1割強と、多くの市民が市の魅力を具体的に挙げられるとの結果となった。なお、市外からの来訪者に「おもてなしの気持ち」を持って交流したことがあるかについては、「ある」(38.3%)が4割弱であった。

7. 世界に広がる市民環境力の発揮

- 市民における環境活動を実行しているかについて尋ねたところ、「常に実行している」は、「節電、省エネへの取組み」(49.1%)、「ごみの減量やリサイクルなど3Rの推進」(48.1%)、「マイバッグの持参」(40.9%)と続き、全市的かつ継続的に環境モデル都市への取り組みを長年行い、経済協力開発機構(OECD)からグリーン成長に関する世界のモデル都市に選ばれた本市ならではの結果となった。「実行層」は、「節電、省エネへの取組み」(91.8%)で最も多く、次いで「ごみの減量やリサイクルなど3Rの推進」(87.4%)、「地元産や旬のものを選んで食べる地産地消」(78.5%)、「環境に

やさしいエコ商品・省エネ性能の高い製品の購入・利用」(75.0%)、「マイバッグの持参」(74.3%)と続いた。一方、「植樹活動や里山保全など自然共生の取組み」は、「常に実行している」(3.3%)、「実行層」(14.2%)ともに最も低く、身近な生活における環境活動はかなり浸透しているが、植樹活動や里山保全のように、言わば日々の生活から一歩進んでの環境活動は、さほど浸透していないことがうかがえる結果となった。

- “ESD”とは、一人ひとりが世界の人々や将来世代また環境との関連性の中で生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育む教育である「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development)の略であり、本市でも「北九州ESD協議会」を中心に活動を行っている。この“ESD”という言葉及び取組内容の認知については、「無認知層」(70.2%)が約7割となった。「認知層」(24.8%)は2割強だが、「高認知層」は4.1%と少数派であった。なお、高齢層における「ESD」の認知層(60歳代32.7%、70歳以上33.8%)と「高認知層」(60歳代5.8%)の割合が高い一方で、若年層と中年層で、「聞いたことがない」(20歳代85.6%、30歳代・40歳代ともに85.9%)の割合が高かったことから、若年および中年層中心に周知を図る必要が感じられる結果となった。

8. 地域から低炭素社会への取組み

- 市では、地球温暖化対策の一環として、太陽光発電やエネファーム(家庭用燃料電池)の設置に対し費用の一部を補助する事業実施を予定しているが、現在、地球温暖化対策設備がどれくらい設置されているかを尋ねてみた。最も多かったのは「LED照明など高効率照明」(36.4%)で、次いで、「住宅の断熱化(断熱材の利用、二重窓など)」(17.7%)、「太陽光発電設備」(4.3%)、「エネファーム(家庭用燃料電池)」(1.1%)と続いた。なお、「無回答(「設置しているものがない」を含む)」は53.0%で、5割以上の市民がこれら4種類の設備を何も置いてないと推察される結果となった。

以上、今回調査の要約としてエッセンスをまとめてみた。

今回の調査では、アンケートを通して、「暴力追放対策」、「多文化共生」、「北九州市自治基本条例」、「ESD」など市の施策の認知度、文化・スポーツや地域活動などの実施状況、環境保全・温暖化対策の取組状況など、現状での様々な市民の意見を得ることができた。この調査結果を行政評価の取組への活用を図るなどして仕事の見直しを行い、施策や事業の質の向上につなげていきたい。